

# 有 価 証 券 報 告 書

第 9 6 期 自 平成 2 4 年 4 月 1 日  
至 平成 2 5 年 3 月 3 1 日

サンコール株式会社

E 0 1 4 0 2

第96期（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

# 有価証券報告書

- 本書は期末有価証券報告書を金融商品取引法第24条第1項に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用して、平成25年6月25日に提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された独立監査人による、期末監査報告書を末尾に綴じ込んでおります。

サンコール株式会社

# 目 次

第一部	【企業情報】	2
第1	【企業の概況】	2
1	【主要な経営指標等の推移】	2
2	【沿革】	4
3	【事業の内容】	5
4	【関係会社の状況】	6
5	【従業員の状況】	7
第2	【事業の状況】	8
1	【業績等の概要】	8
2	【生産、受注及び販売の状況】	9
3	【対処すべき課題】	10
4	【事業等のリスク】	14
5	【経営上の重要な契約等】	14
6	【研究開発活動】	15
7	【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	16
第3	【設備の状況】	17
1	【設備投資等の概要】	17
2	【主要な設備の状況】	17
3	【設備の新設、除却等の計画】	18
第4	【提出会社の状況】	19
1	【株式等の状況】	19
2	【自己株式の取得等の状況】	30
3	【配当政策】	31
4	【株価の推移】	31
5	【役員の状況】	32
6	【コーポレート・ガバナンスの状況等】	35
第5	【経理の状況】	42
1	【連結財務諸表等】	43
(1)	【連結財務諸表】	43
(2)	【その他】	71
2	【財務諸表等】	72
(1)	【財務諸表】	72
(2)	【主な資産及び負債の内容】	89
(3)	【その他】	91
第6	【提出会社の株式事務の概要】	92
第7	【提出会社の参考情報】	93
第二部	【提出会社の保証会社等の情報】	94

独立監査人の監査報告書及び内部統制報告書

独立監査人の監査報告書

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年6月25日
【事業年度】	第96期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
【会社名】	サンコール株式会社
【英訳名】	SUNCALL CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山主 千尋
【本店の所在の場所】	京都市右京区梅津西浦町14番地
【電話番号】	075-881-8111（代表）
【事務連絡者氏名】	業務・管理部門長 杉村 和俊
【最寄りの連絡場所】	京都市右京区梅津西浦町14番地
【電話番号】	075-881-8111（代表）
【事務連絡者氏名】	業務・管理部門長 杉村 和俊
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (百万円)	30,544	28,790	33,089	30,658	31,360
経常利益 (百万円)	824	2,148	2,471	1,864	2,741
当期純利益 (百万円)	228	1,195	1,428	968	1,867
包括利益 (百万円)	—	—	1,235	828	2,509
純資産額 (百万円)	23,506	24,810	25,077	25,479	27,458
総資産額 (百万円)	30,108	34,267	34,113	34,064	35,499
1株当たり純資産額 (円)	697.51	757.55	789.18	800.68	863.53
1株当たり 当期純利益金額 (円)	7.04	36.05	44.44	30.60	58.90
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	7.02	35.88	44.17	30.36	58.44
自己資本比率 (%)	77.8	72.1	73.2	74.5	77.1
自己資本利益率 (%)	0.9	5.0	5.7	3.9	6.8
株価収益率 (倍)	27.3	11.8	8.4	12.5	7.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,750	5,273	3,353	2,736	3,596
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,571	△1,308	△2,386	△1,412	△2,726
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△372	△740	△1,132	△750	△621
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	4,730	7,964	7,617	8,148	8,532
従業員数 (人)	1,773 (803)	1,689 (833)	2,068 (613)	1,960 (501)	1,927 (514)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
売上高 (百万円)	24,052	24,135	26,424	24,881	24,823
経常利益 (百万円)	1,554	2,045	2,005	1,788	2,145
当期純利益 (百万円)	965	1,452	773	1,026	1,427
資本金 (百万円)	4,808	4,808	4,808	4,808	4,808
発行済株式総数 (千株)	34,057	34,057	34,057	34,057	34,057
純資産額 (百万円)	23,756	25,201	24,952	25,556	26,888
総資産額 (百万円)	28,292	32,935	32,030	32,737	33,251
1株当たり純資産額 (円)	704.96	769.53	785.25	803.08	845.55
1株当たり配当額 (円)	12.0	15.0	15.0	15.0	15.0
(1株当たり中間配当額) (円)	(8.0)	(3.0)	(7.0)	(6.0)	(7.0)
1株当たり当期純利益金額 (円)	29.71	43.82	24.07	32.42	45.02
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	29.63	43.60	23.93	32.17	44.67
自己資本比率 (%)	83.7	76.2	77.6	77.7	80.6
自己資本利益率 (%)	4.1	6.0	3.1	4.1	5.5
株価収益率 (倍)	6.5	9.7	15.5	11.8	10.4
配当性向 (%)	40.4	34.2	62.3	46.3	33.3
従業員数 (人)	394	516	497	523	524

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 第93期の1株当たり配当額15円には、業績配当6円を含んでおります。

## 2 【沿革】

昭和18年6月	資本金170万円を以って、現本社所在地において、ピアノ線・各種ばね・その他線材製品の製造加工を目的として『三興線材工業株式会社』を設立。
昭和20年7月	日染興業株式会社（資本金75万円）を吸収合併。
昭和27年6月	トヨタ自動車株式会社他、数社に自動車エンジン用弁ばねの納入を開始。
昭和28年6月	自動車タイヤ用ビードワイヤーの量産に成功。
昭和39年10月	大阪証券取引所の市場第二部に上場。
昭和40年10月	業容の拡大に伴い、東京・名古屋営業所を支店に昇格。
昭和42年10月	愛知県豊田市に豊田工場を建設。
昭和47年12月	宮城県名取市に子会社 サンコール仙台株式会社を設立。
昭和49年2月	熊本県菊池市に子会社 サンコール菊池株式会社（現連結子会社）を設立。
昭和56年3月	山梨県中巨摩郡甲西町に子会社 サンコールエンジニアリング株式会社（現連結子会社）を設立。
昭和59年3月	電子回路検査機器用プローブの設備投資を行い生産開始。
昭和60年12月	ハードディスク装置用サスペンションの設備投資を実施し、超精密分野へ展開。
平成元年5月	米国に100%出資現地法人 SUNCALL SANKO CORP. を設立。
平成元年6月	米国にSUNCALL SANKO CORP. の50%出資現地法人 SANKO PETERSON CORP. を設立。
平成元年11月	愛知県豊田市に広瀬工場を建設。
平成2年1月	SUNCALL SANKO CORP. の子会社として米国のSWISSTRONICS, INC.（マサチューセッツ州）を買収。
平成3年4月	会社名を『サンコール株式会社』に変更。
平成4年4月	香港に子会社 SUNCALL CO., (H.K.) LTD.（現連結子会社）を設立。
平成4年11月	広瀬工場を子会社 広瀬テクノロジー株式会社として設立。
平成6年3月	中国深圳市にSUNCALL CO., (H.K.) LTD. の中国工場を開設。
平成7年1月	兵庫県揖保郡新宮町に子会社 ミクロワイヤー株式会社を設立。
平成7年3月	自動車エンジン用弁ばね材料及びハードディスク装置用サスペンションの設計・開発等で「ISO9001」を、自動車エンジン用弁ばね材料等の製造で「ISO9002」を認証取得。
平成9年1月	サンコール仙台株式会社を閉鎖し、その事業をサンコール菊池株式会社へ統合。
平成9年10月	インドネシアに子会社 PT. SUNCALL INDONESIAを設立。
平成11年8月	SUNCALL SANKO CORP. の子会社 SWISSTRONICS, INC. を売却。
平成12年1月	米国に子会社 SUNCALL AMERICA INC.（現連結子会社）を設立。
平成12年11月	タイに子会社 SUNCALL HIGH PRECISION (THAILAND) LTD.（現連結子会社）を設立。
平成13年2月	SUNCALL SANKO CORP. を清算。
平成13年12月	大阪証券取引所の市場第一部へ指定。
平成14年8月	ミクロワイヤー株式会社を清算。
平成16年1月	10ギガビット光トランシーバーの開発と量産化に成功。
平成16年1月	米国の57%出資現地法人 SANKO PETERSON CORP. を100%子会社化し、米国の子会社 SUNCALL AMERICA INC. に吸収合併。
平成16年5月	本社敷地内にナノテクセンターを建設。
平成16年12月	ベトナムに子会社 SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD.（現連結子会社）を設立。
平成18年3月	中国広州市に子会社 SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD.（現連結子会社）を設立。
平成21年4月	子会社 広瀬テクノロジー株式会社を吸収合併。
平成23年5月	中国深圳市に子会社 SUNCALL CO., (H.K.) LTD.（現連結子会社）が、Suncall Technologies (SZ) Co., Ltd.（現連結子会社）を設立。
平成24年12月	株式会社神戸製鋼所により中国佛山市に設立されたKOBELCO SPRING WIRE (FOSHAN) CO., LTD. に資本参加。

### 3 【事業の内容】

当社の企業集団は、サンコール株式会社（当社）と子会社8社及び関連会社2社で構成されており、その事業は「精密加工金属製品・関連品」及び「その他製品」の製造・販売に二区分しております。なお、当社グループは、所在地別のセグメントとしているため、セグメントに代えて製品区分ごとに記載し、対応セグメントは（ ）書きしております。なお、関連会社であるKOBELCO SPRING WIRE (FOSHAN) CO.,LTD. は稼働準備中であり重要性が乏しいため事業系統図に含めておりません。また、平成22年度に解散を決議致しましたPT. SUNCALL INDONESIAは引続き清算手続き中であり、重要性が乏しいため連結の範囲から除外しており、既に事業活動も営んでいないため事業系統図からも除外しております。

(1) 「精密加工金属製品・関連品」の製造・販売事業における管理区分と位置付けは、次の通りであります。

[精密機能材料] (日本)

ピストンリング材、精密細物ピアノ線、精密異形線、硬鋼線、オイルテンパー線、耐熱合金鋼線等の製造・販売を行っております。

[精密機能部品] (日本、米国、アジア)

自動車エンジン用弁ばね、バルブコッター、自動車用安全装置機能部品、AT部品、ブーツクランプ、ABS用センサーリング、ABS用アクチュエーター、各種異形ばね、異形リング、細工ばね、薄板ばね、リアクトルコイル等の製造・販売を行っております。

[サスペンション] (日本)

ハードディスク装置用サスペンションの製造・販売を行っております。

[プリンター関連] (日本、アジア)

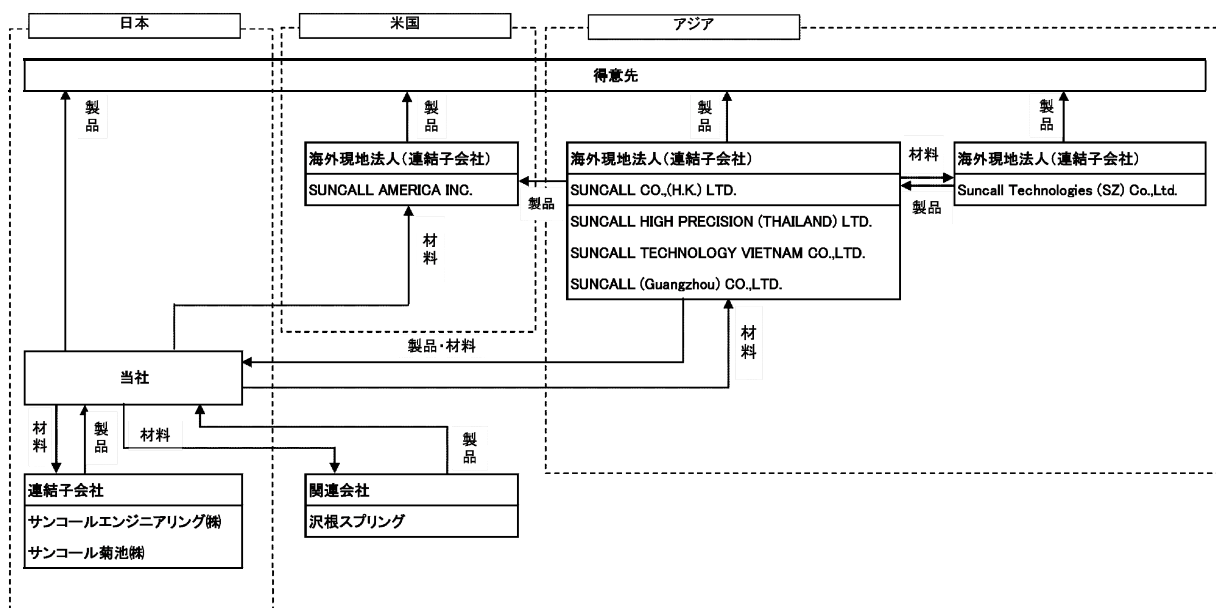
プリンター用精密紙送りローラー等の製造・販売を行っております。

[デジタル精密部品] (日本、米国、アジア)

情報機器部品、光ファイバー用精密部品、電子回路検査機器用プローブ等の製造・販売を行っております。

(2) 「その他製品」(日本)の製造・販売事業における位置付けは、次の通りであります。

精密カム、トライカム、ピックアンドプレス簡易ロボット、自動化装置等の製造・販売を行っております。事業の系統図は、次の通りであります。





#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の 内容 (セグメント)	議決権の所有 割合又は被所有 割合 (%)	関係内容
(連結子会社) サンコールエンジニアリング 株式会社	山梨県南アルプス市	30	精密機能部品 及びデジタル 精密部品、そ の他製品の製 造及び販売 (日本)	100	精密機能部品、デジタル精密部品、 その他製品の一部を製造しており ます。 当社より土地及び建物等の貸与を受 けております。 役員の兼任等…無し
サンコール菊池株式会社	熊本県菊池市	70	精密機能部品 の製造及び販 売 (日本)	100	精密機能部品の一部を製造しており ます。 当社より資金援助を受けておりま す。また、土地及び建物等の貸与を 受けております。 役員の兼任等…無し
SUNCALL AMERICA INC. (注) 2	米国 インディアナ州	9,000 千米ドル	精密機能部品 の製造及び販 売並びにデジ タル精密部品 の販売 (米 国)	100	精密機能部品の一部を製造しており ます。 当社より資金援助を受けておりま す。 役員の兼任等…無し
SUNCALL CO., (H.K.) LTD.	中国 香港特別行政区	4,050 千香港ドル	プリンター関 連部品及びデ ジタル精密部 品の販売 (ア ジア)	100	プリンター関連部品、デジタル精密 部品の一部を販売しております。 当社より資金援助を受けておりま す。 役員の兼任等…無し
SUNCALL HIGH PRECISION (THAILAND) LTD.	タイ国 チョンブリ県	100,000 千タイバツ	精密機能部品 及びプリンタ ー関連部品の 製造及び販売 (アジア)	100	精密機能部品、プリンター関連部品 の一部を製造しております。 当社より資金援助を受けておりま す。 役員の兼任等…無し
SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD. (注) 2	ベトナム国 ハノイ市	6,000 千米ドル	プリンター関 連部品の製造 及び販売 (ア ジア)	100	プリンター関連部品の一部を製造し ております。 当社より資金援助を受けておりま す。 役員の兼任等…無し
SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD. (注) 2	中国広州	650	精密機能部品 の製造及び販 売 (アジア)	100	精密機能部品の一部を製造しており ます。 当社より資金援助を受けておりま す。また、債務保証を受けておりま す。 役員の兼任等…無し
Suncall Technologies (SZ) Co., Ltd. (注) 2、3	中国深圳	6,000 千米ドル	プリンター関 連部品及びデ ジタル精密部 品の製造及び 販売 (アジ ア)	100 (100)	プリンター関連部品、デジタル精密 部品の一部を製造しております。 役員の兼任等…無し
(その他の関係会社) 伊藤忠商事株式会社 (注) 4	東京都港区	202,241	国内及び海外 における各種 の商品売買等	(被所有) 27.10	当社は、人材及び情報提供等で相当 の支援を受けております。

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、製品区分の名称を記載しております。

2 特定子会社であります。

3 議決権所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。

4 有価証券報告書の提出会社であります。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

製品区分の名称	セグメントの名称	従業員数（人）
精密機能材料	日本	96（11）
精密機能部品	日本、米国、アジア	487（53）
サスペンション	日本	89（18）
プリンター関連	日本、アジア	823（426）
デジトロ精密部品	日本、米国、アジア	176（1）
その他製品	日本	29（－）
全社共通	日本、米国、アジア	227（5）
合計		1,927（514）

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除いた就業人員数であります。  
 2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員数であります。  
 3 臨時従業員数には、季節工及びパートタイマーなどの従業員を含め、派遣社員は除いております。  
 4 全社共通は、管理部門などの従業員数であります。

### (2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
524	36.7	13.7	5,363,826

製品区分の名称	従業員数（人）
精密機能材料	96（11）
精密機能部品	184（37）
サスペンション	89（18）
プリンター関連	6（－）
デジトロ精密部品	13（1）
全社共通	136（1）
合計	524（68）

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除いた就業人員数であります。  
 2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員数であります。  
 3 従業員数には、執行役員6名を含んでおります。  
 4 平均年間給与には、賞与及び基準外賃金を含めております。  
 5 全社共通は、管理部門などの従業員数であります。  
 6 提出会社のセグメントは日本であります。

### (3) 労働組合の状況

労使関係は円満に推移しております。

組合の名称 サンコール労働組合 組合員数 424名  
 組織の状況 単一組合（上部団体には加盟していません。）

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

##### 《全般的概要》

##### [経済及び事業環境]

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災の復興需要のための経済対策等によって緩やかに景気回復してまいりました。夏場以降は政策効果が一巡し弱含んだものの、昨年末に発足した新政権への期待感等により回復基調に転じました。輸出についても欧州経済の停滞やアジア諸国との関係の影響を受け低調に推移していたものの、円高是正が進んだことにより持ち直し基調となりました。

世界経済では米国がいわゆる「財政の崖」問題に直面したものの、底堅い個人消費や住宅市場の回復により改善傾向となりました。欧州では債務問題への対応策は進展したものの課題や不安要素は残りました。中国では消費の伸び悩み、賃金コスト上昇や元高など競争力低下を背景とした輸出の鈍化の影響を受けました。

当社グループにおきましては、日中関係の影響等による自動車生産台数の減少、パソコン需要の低迷によりHDDメーカーの在庫調整・減産等の影響を受けました。

##### [連結業績]

この結果、当社グループの通期連結売上高は313億60百万円（前年同期比2.3%増）、連結営業利益は21億37百万円（同23.9%増）、連結経常利益27億41百万円（同47.0%増）、当期連結純利益は18億67百万円（同92.8%増）となりました。

##### 《製品区分別の売上業績》

製品区分の名称	前連結会計年度		当連結会計年度		増 減	
	自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日		自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日			
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	前期比
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
精密機能材料	3,918	12.8	3,975	12.7	57	1.5
精密機能部品	16,814	54.8	18,016	57.5	1,202	7.1
サスペンション	4,400	14.4	4,092	13.0	△ 307	△ 7.0
プリンター関連	3,383	11.0	3,187	10.2	△ 195	△ 5.8
デジトロ精密部品	1,986	6.5	1,909	6.1	△ 76	△ 3.8
その他製品	156	0.5	177	0.5	21	13.8
合 計	30,658	100.0	31,360	100.0	701	2.3

##### [精密機能材料]

弁ばね材料について、前年は震災の影響で国内自動車向け減少分を輸出に振り向けて販売しておりました。一方、当年度では国内自動車メーカーの震災からの復興需要に合わせて当社グループ内における精密機能部品での使用が増えたことにより前年実績を下回って推移しておりましたが、昨年末からの円高是正の影響もあり通年では前年実績を上回る結果となりました。精密異形材料は順調に推移しました。結果として、39億75百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

##### [精密機能部品]

エコカー補助金終了等の影響を受けたもの、米国、中国でのエンジン用途部品が大幅に伸び、180億16百万円（同7.1%増）となりました。

##### [サスペンション]

新OSの販売はありましたがタブレット端末の好調によりパソコン需要が低迷し、結果として、40億92百万円（同7.0%減）となりました。

##### [プリンター関連]

欧州の経済危機による影響やパソコン需要の低迷、競合他社との競争激化により、31億87百万円（同5.8%減）となりました。

##### [デジトロ精密部品]

顧客での現地調達化等の影響を受け、19億9百万円（同3.8%減）となりました。

《セグメント別の業績》

[日本]

国内消費の頭打ちやエコカー補助金終了に伴う顧客での生産減少の影響をうけましたが、年度後半は円高是正が進んだ結果、売上高は254億1百万円（前年同水準）、セグメント利益は22億83百万円（同4.6%増）となりました。

[米国]

米国子会社の自動車精密部品は、自動車業界の需要の回復に牽引され前年に供給開始した製品が好調に推移し、従来品と併せて好調でした。また、光通信部品においては前年実績と同水準となりました。結果として、売上高は26億10百万円（前年同期比37.2%増）、セグメント利益は39百万円（前年同期は1億6百万円の損失）となりました。

[アジア]

ベトナム子会社及び中国子会社（広東省深圳市）ではプリンター関連部品がパソコン需要の低迷や競合他社との競争激化により売上高は前年実績を下回りました。一方、中国子会社（広東省広州市）の自動車精密部品は好調に推移していましたが、年度後半より自動車メーカーの在庫調整、日中関係の影響をうけました。また、タイ子会社は洪水の影響からの脱却により売上高は前年を上回りました。結果として、売上高は59億81百万円（前年同期比6.5%増）、セグメント利益は2億94百万円（同159.1%増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ3億84百万円増加し、当連結会計年度末には85億32百万円となりました。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動によるキャッシュ・フローは、35億96百万円の収入（前年同期比8億59百万円増）となりました。主な増加要因としては、税金等調整前当期純利益（27億31百万円）、減価償却費（19億19百万円）、売上債権の減少（8億33百万円）があり、主な減少要因としては仕入債務の減少（10億42百万円）や法人税等の支払（9億31百万円）があったことによります。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動によるキャッシュ・フローは、27億26百万円の支出（前年同期比13億14百万円増）となりました。これは、主に固定資産の取得による支出（24億83百万円）及び中国での合弁事業参画に伴う関係会社株式の取得による支出（3億25百万円）があったことによります。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動によるキャッシュ・フローは、6億21百万円の支出（前年同期比1億28百万円減）となりました。これは、主にリース債務の返済による支出（96百万円）と配当金の支払による支出（5億6百万円）があったことによります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループの生産、受注及び販売の状況は売上状況に類似しているため、「1【業績等の概要】」における製品区分別の売上業績をご参照下さい。

主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高（百万円）	割合（％）	販売高（百万円）	割合（％）
SHENZHEN HAILIANG STORAGE PRODUCTS CO., LTD.	4,260	13.9	3,960	12.6

### 3 【対処すべき課題】

当社グループは、中期経営計画「プラン37500」をスタートさせました。コア技術である精密金属塑性加工をベースに、自動車やデジタル製品、光通信のグローバル市場でのシェア拡大を進め、2014年度で連結売上高375億円を目指します。

世界経済が大きく変動する中、顧客の海外生産移管が急速に進み、新興国のメーカーとの激しい競争に直面するなど、当社を取り巻く環境は厳しくなっています。当社グループでは、第一に売上高の拡大、第二にグローバル生産体制の強化、第三に新製品開発体制の強化、第四にグローバル競争に勝ち抜く原価低減を対処すべき主な課題として取り組んでいます。

#### (1) 売上高の拡大

ハイブリッド車向けリアクトルコイル、ハードディスクドライブ向けアクチュエーター付サスペンションや顧客仕様に改良した光通信用コネクタ/アダプターなど開発製品の市場展開を進めると同時に、当社の世界市場でのシェアが高いプリンター用ローラーでは、新用途への活用など顧客へ提案することにより売上高の拡大を図ります。

#### (2) グローバル生産体制の強化

自動車関連はアジアや米国向けの需要が今後益々伸びることが見込まれます。また、為替リスクなど外部環境の変化に対応すると同時に、新興国メーカーとの競争で優位性を維持しなければなりません。継続した投資を行い日本、アジア、米国の3極生産体制を強化していきます。また弁ばね用線は合弁事業による中国での生産を開始し、拡大する需要に対応していきます。

#### (3) 新製品開発体制の強化

リチウムイオン電池の端子加工品やハイブリッド車向け積層電磁鋼板コイルなど新規品開発を早期かつ確実に実行するための開発体制の強化も順次進めていきます。

#### (4) グローバル競争に勝ち抜く原価低減

生産工程を省略しコンパクトな生産ラインにつながる素材開発、生産性を高めたラインへの改造や現場における地道な改善活動など当社グループ一丸となった原価改善活動を通じ、原価低減を進めていきます。

#### (5) 当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）

当社は、平成23年5月16日開催の取締役会において、「当社株券等の大規模買付行為に関する対応策（以下「本プラン」という。）を更新することを決議し、平成23年6月24日開催の第94期定時株主総会において承認されました。本プランの概要は、以下の通りです。

##### ① 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社取締役会は、公開会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な株式買付行為に応じて当社株式の売買を行うかどうかは、最終的には当該株式を保有する株主の皆様のご判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかしながら、近時、わが国の資本市場においては、対象会社の経営陣の賛同を得ずに、一方的に大規模買付提案を強行する動きが顕在化しております。こうした大規模買付提案の中には、その目的等からみて企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が大規模買付提案の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

また、当社グループの企業価値を将来にわたって向上させるためには、中長期的な視点での企業経営が必要不可欠であり、そのためには、お客様、お取引先、従業員、地域社会などとの良好な関係の維持はもとより、昭和18年の創業以来、当社が築き上げてきた様々な専門的・技術的なノウハウの活用など、当社グループの深い理解による事業の運営が必須です。

したがって、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方といたしましては、当社の企業理念、企業価値のさまざまな源泉及び当社を支えていただいているステークホルダーとの信頼関係を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保、向上させるものでなければならないと考えております。したがって、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案又はこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当でないと考えております。

## ② 基本方針の実現に資する取組み

### (イ) 当社の企業価値の源泉

当社は、昭和18年、航空機用エンジンの弁ばね用高級鋼材料を製造する目的で創業しました。創業以来、技術集約型精密製品の創造をビジネステーマとして、Fine Precision Products（超精密製品）の機能創造を通じて、お客さまの問題解決を図り社会に貢献することを基本理念に、今日まで歩んできました。

創業時から培われた精密金属塑性加工技術は、異形ダイス開発、超精密金型技術と融合して省資源化に役立つ高精度異形線開発に発展し、“ばね”を中心とした弾性利用部品の設計技術を通じて、自動車用部品の分野で世界でもユニークな材料から加工品までの一貫メーカーの地位を不動なものとしています。

一方、早くから電子情報通信分野の飛躍的發展にも注力し、高精度金属塑性加工にエンジニアリングプラスチック、ファインセラミックス加工技術を取り入れ、クリーン技術、界面技術、精密組立技術と融合させて、高度情報化社会を支える大容量記憶装置（ハードディスクドライブ）、プリンター（複写機、レーザープリンター、インクジェットプリンター）、光通信装置のキーパーツを供給しています。

こうした精密製品の生産技術力、開発力が当社の企業価値の源泉であると考えております。

### (ロ) 中長期的な企業価値向上に向けた取組み

当社及び当社グループは、企業価値のさらなる向上を目指し、精密塑性加工のコア技術をさらに磨き、ナノテクノロジー時代に対応した超精密加工技術を駆使し、新製品開発を進めていく方針です。一方、環境保全に十分に注意を払いながら、安全・品質確保でお客様に信頼頂ける製品作りに邁進してゆくと共に、マーケットのグローバル化に伴い、国内・海外の子会社と連携を深め、最適地での開発・生産体制を構築してまいります。

かかる目標を実現するため、次の通り様々な取組みを行っております。

#### (i) 精密機能加工

日本・アメリカ・アジア・中国の4拠点での生産体制の拡大及び品質保証体制の充実でお客様の満足度向上を通じ、ビジネス拡大を図ってまいります。

#### (ii) 精密機能材料

原価低減、信頼される品質作りを通して取引先とのビジネス維持・拡大を図ってまいります。

#### (iii) HDD用サスペンション

モバイルPC、デスクトップPCや家電用途向けHDD用サスペンションの増産体制を整えると共に、高精度位置決め機構を搭載したマイクロアクチュエータ付きサスペンション（MAS）の開発・量産化により、売上増加を図ってまいります。

#### (iv) プリンターローラー

パイプローラー等、新製品開発によるコスト競争力強化を図り、ビジネス拡大を図ってまいります。

#### (v) 技術・製品開発力強化

ハイブリッド車や電気自動車部品、自然エネルギーの利用など環境関連製品の開発に注力します。

#### (vi) 世界人材の育成と技術伝承を見据えた人材育成

人事制度の整備及び展開を、次の点に狙いを定めて行っております。

- 1) グローバル人材として社員を育成すること。
- 2) 社員の挑戦心・成長意欲を強く牽引し、また後押しすること。
- 3) 社員にとってオープンで分かり易く、納得性があること。
- 4) 結果を出し業績を上げる社員、不断の努力を怠らず、能力を磨いて持続的に社業に寄与する社員をきっちり処遇できること。
- 5) 制度の運用を支えるライン管理職や人事担当者の負担にも配慮すること。

#### (vii) 海外拠点の体質強化

原材料等の調達や人材、資本など現地資源の上手な活用が事業効率を高め、収益にもつながると考え、世界のマーケットで競争力を持てるよう「現地化」を推進します。

- 1) 連結売上の海外比率50%を睨んだ体制作り。
- 2) 各拠点での顧客層の拡大。
- 3) 各拠点で現地材、現地メーカーを活用した最適生産体制の構築。

#### (viii) 内部統制システムの精度アップと業務の効率化

「内部統制システムの充実」は、業務の効率化、適正化等を通じて様々な利益をもたらすと同時に、証券市場に対する内外の信頼を高め、当社を取り巻く全てのステークホルダーに多大な利益をもたらすものと認識しております。業務ルールの標準化・文書化による責任・権限の明確化・業務の可視化、IT活用による不正・誤謬の発生しないシステム構築に取り組んでおります。

#### (ix) コンプライアンスの推進

当社の一員として、社会人として良識と責任のある行動をとるよう日ごろから「コンプライアンス委員会」を軸に推進しております。社員1人ひとりが特に留意すべき事項を「行動規範」として定めており、社員が常に日頃の業務遂行の指針とするよう各職場で繰り返し読み合わせするなどして徹底しております。また、年に一度「コンプライアンス強化週間」を設け、トップメッセージの発信や、コンプライアンスアンケートを実施し、全員参加でコンプライアンスを推進する機会としております。

こうした精密製品の製造・販売、内部統制・コンプライアンスの充実を通じて、株主・投資家をはじめすべてのステークホルダーの皆様方の期待に応えるべく、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の向上を目指した活動を継続してまいります。

#### (ハ) コーポレートガバナンス

当社は、上記諸施策の実行に向けた体制を整備し、持続的な企業価値向上を追求することが重要と考え、コーポレートガバナンスの強化を図っております。取締役の任期を1年とし、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる態勢としております。代表取締役等と直接の利害関係のない独立した立場から、客観的な視点で取締役会を監督するため、社外取締役、社外監査役を選任しております。また、執行役員制度を導入し、経営方針及び重要な業務執行の決定と日常の業務執行を区分することで、取締役会の意思決定と監督機能の強化を図っております。そして、代表取締役社長直轄且つ他部門から独立した内部監査室を設置し、当社及びグループ会社における業務活動が法令・定款及び社内ルールに基づき適法且つ公正に運営されているか等、各部門の内部統制、コンプライアンス、業務遂行状況等についての内部監査を実施し、業務の改善提案、改善結果の確認等を行い、その内容を適宜、取締役、監査役に報告する機能も有しております。

### ③ 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財産及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社取締役会は、当社株券等の大規模買付行為を行おうとする者が遵守すべきルールを明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報及び時間、並びに大規模買付行為を行おうとする者との交渉の機会を確保するために、本プランを更新することといたしました。

本プランは、当社株券等の大規模買付行為を行おうとする者が遵守すべきルールを策定するとともに、一定の場合には当社が対抗措置をとることによって大規模買付行為を行おうとする者に損害が発生する可能性があることを明らかにし、これらを適切に開示することにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資さない当社株券等の大規模買付行為を行おうとする者に対して、警告を行うものです。

大規模買付行為を行う者又は提案する者（以下「大規模買付者」といいます。）が当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付け又は当社が発行者である株券等について、公開買付けに係る株券等の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付けのいずれかにあたる買付けを行った場合は、新株予約権の無償割当て、その他当社取締役会が適切と認めた対抗措置（以下「本新株予約権の無償割当て等」といいます。）を行うか否かを検討いたします。

大規模買付者は、当社取締役会が別段の定めをした場合を除き大規模買付行為の実行に先立ち、当社取締役会に対して、大規模買付者の買付内容の検討に必要な情報（以下「本必要情報」といいます。）及び当該大規模買付者が大規模買付行為に際して本プランに定める手続きを遵守する旨の誓約文言等を記載した書面（以下「買付説明書」と総称します。）を当社の定める書式により提出していただきます。

当社取締役会は、当該買付説明書の記載内容が本必要情報として不十分であると判断した場合には、買付者等に対し、追加的に情報を提供するように求めることがあります。この場合、買付者等においては、かかる情報を追加的に提供していただきます。

当社取締役会は、大規模買付者から提供された情報・資料等に基づき、また、必要に応じて外部専門家等（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家）の助言を得ながら、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の観点から、大規模買付者による大規模買付行為の内容の検討を行い、当社取締役会による代替案の検討及び大規模買付者と当社取締役会の事業計画等に関する情報収集・比較検討等を行います。

さらに、大規模買付者から大規模買付行為に係る提案がなされた事実とその概要、本必要情報の概要その他の状況及び当社取締役会としての意見を速やかに情報開示します。

当社は、対抗措置の発動の賛否に関する株主意思の確認手続きとして、株主意思確認総会における株主投票、又は書面投票のいずれかを選択できるものとします。株主意思確認総会は、定時株主総会又は臨時株主総会と併せて開催される場合もあります。但し、(a)大規模買付ルールが遵守されない場合、(b)大規模買付ルールが遵守され、かつ、当社取締役会が当該買収提案が当社の企業価値ひいては株主共同の利益の最大化に資すると判断した場合、(c)大量買付ルールが遵守されている場合であっても、当該大規模買付行為が当社企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に反すると判断される場合には、株主意思の確認手続きは行われません。

④ 具体的な取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、上記2記載の取組みが、当社の企業理念に根ざした企業価値向上策として、また、上記3記載の取組みが下記に記載するような合理性を有する買収防衛策として、いずれも上記1記載の基本方針に沿うものであり、当社の株主の共同の利益を損なうものではなく、かつ当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

・買収防衛策に関する指針の要件を全て充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を全て充足しています。また、企業価値研究会が平成20年6月30日に公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」において示された考え方に沿うものであります。

・株主共同利益の確保・向上の目的をもって更新されていること

本プランは、当社株式に対する大規模買付行為が行われた際に、当該大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断するために必要な情報や時間、あるいは当社取締役会による代替案の提示を受ける機会を確保すること等を可能にするものであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって更新されるものです。

・株主意思を重視するものであること

本プランは、平成23年6月24日開催の当社第94期定時株主総会において承認の決議を得て更新されたもので、その有効期間は平成26年6月開催予定の定時株主総会終結の時までです。また、本プランの有効期間の満了前であっても、株主総会において、本プランの変更又は廃止の決議がなされた場合には、当該決議に従い変更又は廃止されることとなります。

さらに、大規模買付ルールに従った大規模買付行為が行われた場合には、原則として、対抗措置の発動の賛否に関する株主意思を確認し、本プランに基づいた対抗措置の実施について、株主の皆様にご判断いただくこととなっております。

・合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、予め定められた合理的客観的発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しています。

・第三者専門家の意見の取得

大規模買付者が出現した場合、独立した第三者の助言を得ることができることにより、当社取締役会による判断の公正さ・客観性がより強く担保された仕組みとなっております。

・デッドハンド型若しくはスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により廃止することができることから、当社の株券等を大規模に買付けた者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。したがって、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交代させてもなお発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社は期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成の交代を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

なお、本プランの詳細については、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.suncall.co.jp/>）をご参照ください。



#### 4 【事業等のリスク】

##### (1) 市場環境の変化

当社グループは、売上高の約70%程度を自動車用部品に依存している他、HDD用サスペンション、プリンター用部品もそれぞれ大きな比率を占めております。これらの市場動向の変化と技術革新は当社製品の生産販売量の変動につながり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 為替変動による影響

海外市場の積極的な開拓とグローバル化に伴う海外生産拠点の拡大にあわせて、外貨建て取引が増加しており、為替レートの変動が当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 原材料市況の変動

世界的な原油・原材料価格変動の影響による当社の主要材料である特殊鋼市況の大きな変動は、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 海外事業におけるリスク

当社グループは、米国・中国・東南アジアにおいて生産及び販売活動を行っており、進出先での予期せぬ法律・規制の変更やテロ、治安の悪化等の影響により事業活動が停滞するリスクが考えられます。

##### (5) 自然災害・疫病の影響

当社グループは、国内5拠点・海外5拠点で生産活動を行っており、地震や大規模な自然災害/疫病の発生により生産活動が中断され、事業に影響を及ぼすリスクが考えられます。

##### (6) コンプライアンス等に関するリスク

法令順守を極めて重要な企業の責務と認識しており、コンプライアンスプログラムを策定し、法令順守の徹底を図っております。

しかしながら、こうした対策を行っても国内外の行政・司法・規制当局等による予期せぬ法令の制定や改廃が行われる可能性や、社会・経済環境の著しい変化等に伴う各種規制の大幅変更の可能性で、コンプライアンスに関するリスクもしくは社会的に信用が毀損されるリスクを排除できない場合があります。その場合には当社グループの事業に影響を及ぼす可能性があります。

##### (7) 情報セキュリティに関するリスク

すべての役員、従業員に対し、情報の取扱いに関する管理規程を定めることで、情報のセキュリティを確保することを重要な課題として認識しており、情報管理の徹底に取り組んでいます。

しかしながら、外部からの予期せぬ不正アクセス、コンピューターウイルス侵入等による企業機密情報、個人情報情報の漏洩を完全に排除することはできません。このような場合には当社グループの事業に影響を与える可能性があります。

#### 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社は、Fine Precision Products(超精密機能製品)の機能拡大を通じてお客様の問題解決を図り、事業を拡大することを使命ととらえ、①精密塑性加工技術をコアに機能材料から一貫した高精度製品を拡大する、②高精度精密部品に電子・光部品を摺り合わせた製品を開発する、③ユニット製品にソフトを付加した製品を開発することを通じて自動車、情報・デジタル製品、光通信のグローバル市場での事業拡大を目指します。

なお、当連結会計年度の研究開発活動に要した費用は、7億86百万円であり、主な研究開発の成果は下記の通りであります。費用は、品種別に対応させることが困難なため、総額で記載しております。

また、下記は主な製品区分ごとに記載し、対応セグメントは( )書きしております。

### (1) 開発グループ(日本)

#### ◎ソーラー発電用シリコン切断ワイヤーの開発

再生エネルギーの需要が高まる中、太陽電池用シリコンウエハ切断用のダイヤモンド電着ワイヤーの開発を行っています。2014年度からの販売準備を進めています。

#### ◎PHV用ターミナルバスバーの開発

平角線を自在にフォーミング加工することにより、従来のプレス加工に比べ設計ロスを大幅に削減し更に絶縁塗装技術を確認し樹脂製絶縁カバーを不要としたターミナルバスバーを開発しました。2013年1月から量産を開始しました。

#### ◎歩行リハビリ支援ロボット(KAI-R)の開発

これまでの人工膝関節置換術後のリハビリ支援用途に加え、片麻痺者を対象に歩行機能回復を目的とした福祉機器用歩行リハビリ支援ロボットの実用化に向けた開発を開始しました。2012年11月より臨床研究を開始しました。

### (2) 精密機能材料(日本)

#### ◎高トルクゼンマイバネ用精密圧延材の開発

自動車シートベルト用ゼンマイバネの高トルク化を目的として、素材である精密圧延材の高強度化を進めてきましたが、材料成分および製造条件の最適化により、高強度でありながらゼンマイの加工性も兼備した圧延材の開発に成功しました。

### (3) 精密機能部品(日本)

#### ◎新可変動弁機構用ぜんまいの開発

次世代エンジンの新可変動弁機構部品向けに、弁ばねと同等の高品質を有する異形断面材を用いたゼンマイバネの開発を行っていましたが、海外自動車メーカーでの採用が決定し2013年度から量産開始の予定です。

#### ◎シートベルトリトラクター用高反発ゼンマイの開発

上記、精密機能材料での高トルクゼンマイバネ用精密圧延材の開発により、異形圧延の技術とぜんまい強加工との組み合わせにより、反発力を現行比10%高めることが出来ました。これにより、ゼンマイ材の薄板化と全長削減により重量軽減を図ることができ大幅なコスト低減が可能となります。製品の2013年度の量産化を目指し、客先での認証活動を開始しました。

### (4) サスペンション(日本)

#### ◎マイクロアクチュエータ搭載サスペンションの開発

今後必須となる磁気ヘッド高精度位置決めのためのマイクロアクチュエータ搭載サスペンションの量産技術の開発を行いました。量産設備を製作、導入するとともに、アクチュエータ素子実装の量産プロセス及びそれに適応したサスペンション組立プロセスを確立しました。2013年度第1四半期には量産を開始する予定です。

### (5) プリンター関連(日本)

#### ◎大判インクジェットプリンター用キャリッジシャフトの開発

大判インクジェットプリンターは、コンシューマー用途からビジネス用途、特殊用途へ拡大している製品です。当社が培ってきた長尺紙送ローラーの加工技術に鏡面研磨加工技術を組み合わせることにより、1~2mの長尺シャフトの真直性を維持する一方、表面を鏡面仕上げするインクヘッドのガイド用シャフトであるキャリッジシャフトの製品化に成功しました。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度は、売上高はサスペンションやプリンター関連部品ではパソコンの販売不振に起因して前年水準に及ばなかったものの、米国や中国を中心に自動車販売が好調だったことで精密機能部品が伸長し、売上高全体としては前年比7億1百万円増(2.3%増)の313億60百万円となりました。売上原価は原価低減活動を積極的に展開したことにより前年比40百万円減(0.2%減)の253億46百万円となり、営業利益は前年比4億12百万円増(23.9%増)の21億37百万円となりました。

営業外損益については、主に受取配当金が前年に比べて21百万円増加したことや為替差益を4億5百万円計上したことから、経常利益は前年比8億87百万円増(47.0%増)の27億41百万円となりました。

特別損益については、収益では新株予約権戻入益39百万円(ストック・オプションの権利行使期間の終了によるもの)を計上し、費用では固定資産廃棄損を50百万円(主に建物及び構築物で20百万円、機械装置及び運搬具で28百万円)計上しました。

以上により、税金等調整前当期純利益は前年比で8億88百万円増(48.2%増)の27億31百万円となりましたが、法人税等合計額は国内での税制改正による税率低減及び在外子会社の繰越欠損金使用等により前年比10百万円減の8億64百万円となりました。その結果、当期純利益は前年比8億98百万円増(92.8%増)の18億67百万円となりました。

### (セグメント別売上高・利益)

セグメント別の業績(売上高・利益)につきましては、「第2【事業の状況】の1【業績等の概要】」にて記載した通りであります。

### (2) 財政状態及び流動性の分析

#### (資産、負債及び純資産)

##### [資産]

総資産は、354億99百万円(前年同期比14億35百万円増)となりました。建設仮勘定が3億41百万円、建物及び構築物が社員寮建設等により5億51百万円、投資有価証券が中国での合弁事業参画及び株価上昇により9億57百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が6億22百万円減少したことによります。

##### [負債]

負債は、80億40百万円(前年同期比5億43百万円減)となりました。これは主に、株価上昇によって投資有価証券の含み益が増えたことに伴い繰延税金負債が2億41百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が8億76百万円が減少したことによります。

##### [純資産]

純資産は、274億58百万円(前年同期比19億79百万円増)となりました。これは主に、利益剰余金が配当により5億7百万円減少した一方で当期純利益により18億64百万円増加したことの他、株価上昇によりその他有価証券評価差額金が4億34百万円増加したことによります。

#### (設備投資額と減価償却費)

当連結会計年度における固定資産の投資額(キャッシュ・フロー・ベース)は、24億83百万円(前期比10億68百万円増)となりました。

固定資産の投資額(キャッシュ・フロー・ベース)の増加は、経済環境の変化に対応し、主に精密機能材料、サスペンションなどの増産や新規製品の生産対応によるものです。

当連結会計年度における減価償却費については、19億19百万円(前期比2億67百万円減)となりました。

#### (キャッシュ・フロー)

キャッシュ・フローの分析につきましては、「第2【事業の状況】の1【業績等の概要】」にて記載した通りであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において当社グループは、増産対応、生産性向上、コスト削減、品質向上、及び環境改善を中心に総額で17億67百万円の設備投資を実施しました。主な内訳は、次の通りであります。

セグメントの名称	製品区分の名称	投資金額 (百万円)	主な投資目的
日本	精密機能材料	125	弁ばね用材、精密異形材の生産性向上及び品質向上
	精密機能部品	501	自動車関連部品のコスト削減及び環境改善
	サスペンション	482	新規品の増産対応及び生産性向上
米国	精密機能部品	355	自動車関連部品の生産性向上及び環境改善
アジア	精密機能部品	75	自動車関連部品の生産性向上及び環境改善
	プリンター関連	107	プリンター用精密紙送りローラーの増産対応及び品質向上

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次の通りであります。

##### (1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	製品区分の名称	帳簿価額 (百万円)					従業員数 (人)	
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他		合計
本社及び本社工場 (京都市右京区)	日本	管理・販売・開発 精密機能材料 サスペンション プリンター関連 デジトロ精密部品 その他製品	2,374	1,415	168 (38)	30	156	4,145	329 (31)
豊田工場 (愛知県豊田市)	日本	精密機能部品	304	965	11 (16)	26	58	1,366	101 (15)
広瀬工場 (愛知県豊田市)	日本	精密機能部品	482	629	1,054 (47)	17	25	2,208	94 (22)

##### (2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	製品区分の名称	帳簿価額 (百万円)					従業員数 (人)	
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他		合計
サンコール エンジニアリング 株式会社 (山梨県南アルプス市) (注) 2	日本	精密機能部品 デジトロ精密部品 その他製品	27	173	* 205 (33)	5	12	219 * 205	64 (2)
サンコール菊池株式会社 (熊本県菊池市) (注) 2	日本	精密機能部品	31	308	* 87 (33)	5	5	351 * 87	74 (14)

## (3) 在外子会社

平成25年3月31日現在

会社名（所在地）	セグメントの名称	製品区分の名称	帳簿価額（百万円）						従業員数（人）
			建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地（面積千㎡）	リース資産	その他	合計	
SUNCALL AMERICA INC. （米国 インディアナ州）	米国	精密機能部品	225	454	7 (28)	42	234	963	94
SUNCALL AMERICA INC. （米国 サウスカロライナ州）	米国	デジトロ精密部品	—	—	—	—	0	0	6 (1)
Suncall Technologies (SZ) Co., Ltd. （中国深圳）	アジア	プリンター関連 デジトロ精密部品	11	209	—	—	24	246	507
SUNCALL HIGH PRECISION (THAILAND) LTD. （タイ国チョンブリ県）	アジア	精密機能部品 プリンター関連	65	49	87 (17)	—	139	341	233
SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD. （ベトナム国ハノイ市）	アジア	プリンター関連	196	86	—	—	19	301	375 (429)
SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD. （中国広州）	アジア	精密機能部品	90	235	—	104	10	439	44

- (注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。  
2 \*印は、提出会社からの賃借分であります。  
3 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員（1日8時間換算）であります。  
4 上記の他、連結会社以外からの主要な賃借及びリース設備の内容は、下記の通りであります。

在外子会社

会社名（所在地）	セグメントの名称	製品区分の名称	設備の内容	年間賃借料及びリース料 （百万円）	契約残高 （百万円）
SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD. （ベトナム国ハノイ市）	アジア	プリンター関連	土地	2	77

## 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備の新設のセグメント別計画は、次の通りであります。

## (1) 重要な設備の新設

会社名	所在地	セグメントの名称	製品区分の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定年月	完成後の増加能力
					総額 （百万円）	既支払額 （百万円）				
サンコール株式会社	京都市 右京区	日本	精密機能材料	生産設備	520	—	自己資金	平成25年 4月	平成26 年3月	—
		日本	精密機能部品	生産設備	643	—	自己資金	平成25年 4月	平成26 年3月	—
		日本	サスペンション	生産設備	314	—	自己資金	平成25年 4月	平成26 年3月	—
SUNCALL AMERICA INC.	米国 インディアナ州	米国	精密機能部品	生産設備	228	—	自己資金	平成25年 1月	平成25 年12月	—
SUNCALL HIGH PRECISION (THAILAND) LTD.	タイ国 チョンブリ県	アジア	精密機能部品	生産設備	162	—	自己資金	平成25年 1月	平成25 年12月	—
SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD.	中国広州	アジア	精密機能部品	生産設備	165	—	自己資金	平成25年 1月	平成25 年12月	—

- (注) 完成後の増加能力につきましては、生産品目が多種多様にわたっており、算定が困難であるため記載しておりません。

## (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 （株） （平成25年3月31日）	提出日現在発行数 （株） （平成25年6月25日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,057,923	34,057,923	大阪証券取引所 （市場第一部）	単元株式数は1,000株 であります。
計	34,057,923	34,057,923	—	—

（注） 「提出日現在発行数」欄には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次の通りであります。

平成24年7月17日取締役会決議

	事業年度末現在 （平成25年3月31日）	提出日の前月末現在 （平成25年5月31日）
新株予約権の数（個）	60（注）1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数（株）	60,000（注）2	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成24年8月3日 至 平成34年8月2日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の 株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 294円 資本組入額 147円	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役、監査役 及び執行役員のいずれの地位をも喪失した 日の翌日から新株予約権を行使することが できる。 その他の条件は、当社と新株予約権の割 り当てを受けた者との間で締結した「新株 予約権（株式報酬型ストックオプション） 割当契約書」で定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得につい ては、取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関す る事項	（注）3	同左

- (注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、1,000株であります。
2. 当社が当社普通株式につき、株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。）又は株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整し、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。  
調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割・併合の比率  
又、上記のほか、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合理的な範囲で付与株式数を調整する。
3. 組織再編における新株予約権の消滅及び再編対象会社の新株予約権交付の内容に関する決定方針  
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- ① 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。
  - ② 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
  - ③ 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案の上、前記（「新株予約権の目的となる株式の数」）に準じて決定する。
  - ④ 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記③に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とする。
  - ⑤ 新株予約権を行使することができる期間  
前記（「新株予約権の行使期間」）に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、前記（「新株予約権の行使期間」）に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
  - ⑥ 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
前記（「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」）に準じて決定する。
  - ⑦ 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。
  - ⑧ 新株予約権の取得条項  
以下の(イ)、(ロ)、(ハ)、(ニ)又は(ホ)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議又は代表執行役の決定がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。  
(イ) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案  
(ロ) 当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案  
(ハ) 当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案  
(ニ) 当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案  
(ホ) 新株予約権の目的である株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
  - ⑨ その他の新株予約権の行使の条件  
前記（「新株予約権の行使の条件」）に準じて決定する。

## 平成23年7月15日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	60(注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	60,000(注) 2	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成23年8月2日 至 平成33年8月1日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 299円 資本組入額 150円	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、当社の取締役、監査役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から新株予約権を行使することができる。</p> <p>その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した「新株予約権(株式報酬型ストックオプション)割当契約書」で定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3	同左

(注) 注記につきましては、前述の「平成24年7月17日取締役会決議」に記載のものをご参照ください。



## 平成22年7月14日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	60(注)1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	60,000(注)2	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成22年7月31日 至 平成32年7月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 318円 資本組入額 159円	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役、監査役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から新株予約権を行使することができる。 その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した「新株予約権(株式報酬型ストックオプション)割当契約書」で定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3	同左

(注) 注記につきましては、前述の「平成24年7月17日取締役会決議」に記載のものをご参照ください。

## 平成21年7月30日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	32(注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	32,000(注) 2	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成21年8月18日 至 平成31年8月17日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 239円 資本組入額 120円	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役、監査役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から新株予約権を行使することができる。 その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した「新株予約権(株式報酬型ストックオプション)割当契約書」で定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3	同左

(注) 注記につきましては、前述の「平成24年7月17日取締役会決議」に記載のものをご参照ください。

## 平成20年7月14日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	20(注) 1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	20,000(注) 2	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成20年7月31日 至 平成30年7月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 371円 資本組入額 186円	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は、当社の取締役、監査役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から新株予約権を行使することができる。</p> <p>その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した「新株予約権(株式報酬型ストックオプション)割当契約書」で定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 3	同左

(注) 注記につきましては、前述の「平成24年7月17日取締役会決議」に記載のものをご参照ください。

## 平成19年6月22日取締役会決議

	事業年度末現在 (平成25年3月31日)	提出日の前月末現在 (平成25年5月31日)
新株予約権の数(個)	7(注)1	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	7,000(注)2	同左
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1円	同左
新株予約権の行使期間	自 平成19年7月31日 至 平成29年7月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 596円 資本組入額 298円	同左
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役、監査役及び執行役員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から新株予約権を行使することができる。 その他の条件は、当社と新株予約権の割り当てを受けた者との間で締結した「新株予約権(株式報酬型ストックオプション)割当契約書」で定めるところによる。	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	—	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)3	同左

(注) 注記につきましては、前述の「平成24年7月17日取締役会決議」に記載のものをご参照ください。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成13年4月1日～ 平成14年3月31日	△3,481,000	34,057,923	—	4,808	△1,150 (注)	2,721

(注) 自己株式の消却による減少であります。

## (6) 【所有者別状況】

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数1,000株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	11	23	92	52	4	3,533	3,715	—
所有株式数（単元）	—	7,883	383	10,503	951	16	14,002	33,738	319,923
所有株式数の割合（%）	—	23.37	1.13	31.13	2.82	0.05	41.50	100.00	—

（注） 自己株式2,344,655株は、「個人その他」に2,344単元、「単元未満株式の状況」に655株含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
伊藤忠商事株式会社	東京都港区北青山2丁目5-1号	8,509	24.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	5,235	15.37
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	1,000	2.94
株式会社京都銀行	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700	768	2.26
サンコール従業員持株会	京都市右京区梅津西浦町14番地	655	1.93
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1	623	1.83
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	307	0.90
京都中央信用金庫	京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町91	223	0.65
岩崎 泰次	静岡市駿河区	221	0.65
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	213	0.62
計	—	17,756	52.14

（注） 1 当社の自己株式（2,344千株、持株比率6.88%）は、上記の表には含めておりません。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次の通りであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社（退職給付信託口）	5,069千株
〃（信託口）	166千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	213千株

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,344,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,394,000	31,394	—
単元未満株式	普通株式 319,923	—	—
発行済株式総数	34,057,923	—	—
総株主の議決権	—	31,394	—

## ② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
サンコール株式会社	京都市右京区梅津西浦町14番地	2,344,000	—	2,344,000	6.88
計	—	2,344,000	—	2,344,000	6.88

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、平成19年6月22日の定時株主総会、並びに、平成20年7月14日、平成21年7月30日、平成22年7月14日、平成23年7月15日、平成24年7月17日の取締役会において、会社法の規定に基づき、当社が新株予約権を発行する方法により、付与することが決議されたものです。

当該制度の内容は次の通りです。

決議年月日	平成24年7月17日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役5名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) [新株予約権等の状況]」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

決議年月日	平成23年 7月15日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

決議年月日	平成22年 7月14日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

決議年月日	平成21年 7月30日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
株式の数	60,000株
新株予約権の行使時の払込金額	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

決議年月日	平成20年7月14日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役5名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
株式の数	66,000株
新株予約権の行使時の払込金額	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上

決議年月日	平成19年6月22日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役5名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
株式の数	46,000株
新株予約権の行使時の払込金額	「(2)〔新株予約権等の状況〕」に記載しております。
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	同上
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	同上



## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (百万円)
当事業年度における取得自己株式	3,071	1
当期間における取得自己株式	983	0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (新株予約権の権利行使)	24,000	9	—	—
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	—	—	—	—
保有自己株式数	2,344,655	896	—	—

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式数は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

利益配分につきましては、会社の経営に対する基本方針に基づき、長期的な視野に立った経営体質の強化、事業成長を維持するための設備投資等に活用していくと共に、安定的な配当を維持して進めてまいります。

なお、今後の配当につきましては、当面引続き年2回の配当とし、期末配当につきましては、株主総会の決議事項とします。

当期末の配当につきましては予定通り8円とさせていただきます。これにより当期の配当金は中間配当の7円とあわせて15円となります。

内部留保資金につきましては、企業価値向上のための投資等に活用し、将来の事業展開を通じて株主の皆様へ還元させていただき所存です。

なお、当社は、取締役会の決議により中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

基準日が当事業年度にかかる剰余金の配当は、以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
平成24年11月5日 取締役会決議	221	7.0
平成25年6月25日 定時株主総会決議	253	8.0

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高（円）	550	439	460	395	490
最低（円）	171	190	314	320	336

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	平成24年11月	平成24年12月	平成25年1月	平成25年2月	平成25年3月
最高（円）	376	367	433	462	477	490
最低（円）	350	341	365	419	440	453

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有 株式数 (千株)
代表取締役 会長		吉田茂次	昭和23年 8月9日生	昭和47年4月 平成11年4月 平成16年4月 平成16年6月 平成17年4月 平成18年4月 平成18年6月 平成19年6月 平成20年4月 平成20年6月 平成21年6月 平成25年6月	当社入社 当社素材・自動車部品事業部機能材料部長 当社執行役員 SUNCALL AMERICA INC. 会長 当社取締役 当社常務執行役員 精密機能Ⅱ部門長 当社常務執行役員 デジトロ部門長 当社常務取締役 常務執行役員 デジトロ部門長 当社専務取締役 常務執行役員 デジトロ部門長 当社専務取締役 常務執行役員 精密機能材料部門長 当社代表取締役 専務取締役 常務執行役員、 精密機能材料部門長 当社代表取締役社長 当社代表取締役会長（現在）	(注) 3	43
代表取締役 社長		山主千尋	昭和29年 5月22日生	昭和52年4月 平成17年1月 平成20年4月 平成22年4月 平成23年6月 平成24年6月 平成25年6月	当社入社 SUNCALL AMERICA INC. 社長 当社執行役員 精密機能加工部門長代理 広瀬 テクノロジー株式会社代表取締役社長 当社常務執行役員 サスペンション事業部門長 当社取締役 常務執行役員 情報・精密製品部 門長 当社常務取締役 常務執行役員 情報・精密製 品部門長 当社代表取締役社長（現在）	(注) 3	14
代表取締役 副社長 常務執行役員	生産・事業 管理本部長	岡部清文	昭和28年 11月1日生	昭和47年4月 平成11年4月 平成16年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成20年6月 平成22年6月 平成24年4月 平成24年6月 平成25年6月	当社入社 当社SMP部品事業部生産部長 当社執行役員 業務・管理部門長 当社常務執行役員 業務・管理部門長 当社常務執行役員 精密機能加工部門長 当社取締役 常務執行役員 精密機能加工部門長 当社常務取締役 常務執行役員 精密機能加工部門長 当社常務取締役 常務執行役員 精密機能加工Ⅰ部門長 当社代表取締役 専務取締役 常務執行役員 精密機能加工Ⅰ部門長 当社代表取締役副社長 常務執行役員 生産・ 事業管理本部長（現在）	(注) 3	39
専務取締役 常務執行役員	営業本部長	加藤裕	昭和30年 6月4日生	昭和54年4月 平成17年4月 平成20年4月 平成21年4月 平成22年6月 平成23年4月 平成25年6月	伊藤忠商事株式会社入社 同社産機ソリューション部門長 同社執行役員 産機ソリューション部門長 同社理事 アセットマネジメント室長 当社常務取締役 当社常務取締役 常務執行役員 海外戦略部門 長 当社専務取締役 常務執行役員 営業本部長 （現在）	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	非常勤	川 嵩 宏昭	昭和33年 12月5日生	昭和57年4月 平成18年1月 平成19年6月 平成23年4月 平成25年4月 平成25年6月	伊藤忠商事株式会社入社 株式会社ヤナセ出向(執行役員) ITOCHU Automobile America Inc.出向 (PRESIDENT & CEO) 伊藤忠商事株式会社 自動車事業推進事業部長 同社自動車・建機・産機部門長代行(現在) 当社取締役(現在)	(注)1 (注)3	—
取締役	非常勤	藤 井 晃二	昭和33年 3月26日生	昭和55年4月 平成18年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成24年4月 平成25年4月 平成25年6月	株式会社神戸製鋼所入社 同社鉄鋼部門加古川製鉄所設備部長 同社理事 鉄鋼部門加古川製鉄所設備部長 同社執行役員 鉄鋼事業部門技術総括部長 同社常務執行役員 鉄鋼事業部門技術総括部長 同社常務執行役員 鉄鋼事業部門神戸製鉄所長 (現任) 当社取締役(現在)	(注)1 (注)3	—
監査役	常勤	青 木 茂 樹	昭和29年 8月4日生	昭和52年4月 昭和54年11月 平成3年9月 平成20年6月 平成24年6月	山一証券株式会社入社 カシオ計算機株式会社入社 伊藤忠商事株式会社入社 同社監査役室長 当社監査役(現在)	(注)2 (注)4	—
監査役	常勤	村 林 元 明	昭和26年 1月1日生	昭和44年4月 平成13年4月 平成20年4月 平成22年6月	当社入社 当社西日本支店長 当社東京支店長 当社監査役(現在)	(注)5	22
監査役	常勤	波 部 義 彦	昭和26年 6月7日生	昭和50年4月 平成13年4月 平成15年4月 平成16年4月 平成18年4月 平成20年4月 平成22年4月 平成22年6月 平成23年6月	伊藤忠商事㈱入社 同社通信ビジネス部長 同社情報産業部門長代行 当社執行役員 営業部門長代理 当社常務執行役員 東京支店長 当社常務執行役員 サスペンション事業部門長 当社常務執行役員 品質・安全環境部門長 当社取締役 常務執行役員 品質・安全環境部 門長 当社監査役(現在)	(注)6	13

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役	非常勤	山田英造	昭和30年 8月24日生	昭和54年4月 平成20年10月 平成23年4月 平成23年6月 平成24年4月	伊藤忠商事㈱入社 同社機械事業統括部長 同社機械・情報カンパニーCFO補佐 当社監査役(現在) 伊藤忠商事㈱機械カンパニーCFO補佐(現在)	(注)2 (注)7	—
計							131

- (注) 1 取締役、川島宏昭及び藤井晃二の両名は、社外取締役であります。
- 2 監査役、青木茂樹及び山田英造の両名は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役(青木茂樹)の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役(村林元明)の任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役(波部義彦)の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役(山田英造)の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 8 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次の通りであります。

氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
田中等	昭和27年5月7日生	昭和54年4月 大阪弁護士会登録、淀屋橋合同法律事務所 (現弁護士法人淀屋橋・山上合同) 入所 昭和61年1月 同事務所パートナー就任(現在)	(注)	—

なお、田中等氏は社外監査役の要件を満たしております。

補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

- 9 所有株式数には、役員持株会名義のものは含めておりません。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ①企業統治の体制

##### (イ) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は「技術集約型精密製品の創造を通じて、お客さまの問題解決を図り社会に貢献する。」ことを経営の基本理念としております。この経営理念を実現させるために、経営上の組織体制や仕組みを整備し、コーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

##### (ロ) 企業統治の体制の概要及び企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社です。取締役6名（うち社外取締役2名）、監査役4名（うち社外監査役2名）の体制をとっております。取締役の任期を1年とし、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる態勢としております。代表取締役などと直接の利害関係のない独立した立場から、客観的な視点で取締役会を監督するため、社外取締役、社外監査役を選任しております。また、執行役員制度を導入し、経営方針及び重要な業務執行の決定と日常の業務執行を区分することで、取締役会の意思決定と監督機能の強化を図っております。

取締役会は原則月1回開催され、法令に定められた事項や経営に関する重要事項を決定すると共に、業務執行の状況を逐次監督しております。取締役会の決定した基本方針に基づき、全般的な業務執行方針および計画ならびに重要な業務に関し協議するために、部門長の集まりである経営会議、執行役員会議を各月1回開催しております。

##### (ハ) その他企業統治に関する事項

###### (内部統制システムの整備状況)

平成18年5月10日の取締役会にて会社法第362条第4項第6号の定めに従い、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための必要な体制、その他株式会社の業務の適正を確保するために必要な体制を整備することを決議しました。その決議方針に基づき、平成18年6月に内部統制部門（現 内部監査室）を発足させ、全社統制、IT統制等、業務フローの整備、社内規程の整備、リスク管理システム、モニタリングシステム等につき、運用しております。

###### (リスク管理体制の整備状況)

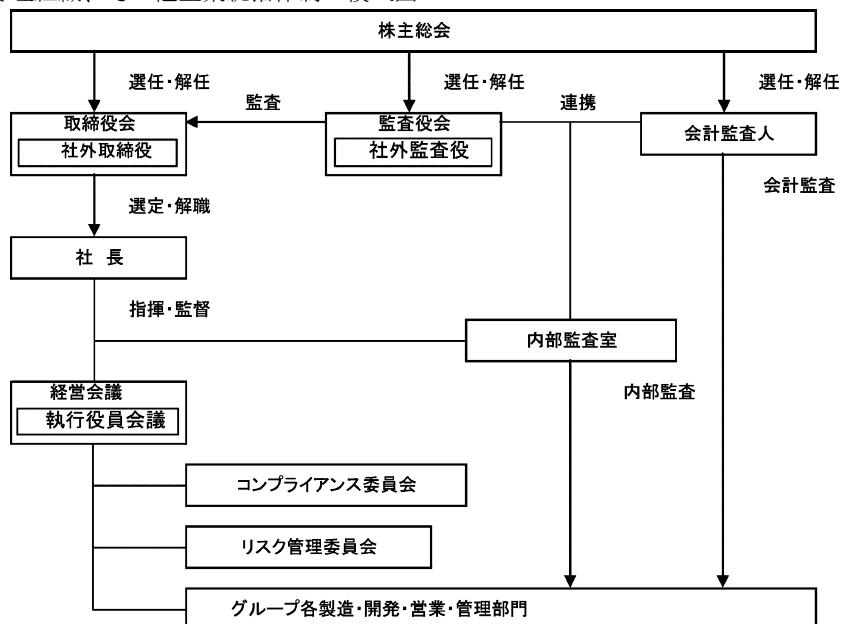
当社及びグループを取り巻く諸リスクを、組織的・体系的に管理することを目的に、「リスク管理規程」を制定し、「リスク管理委員会の設置による、広範囲のリスクの洗い出し、軽減対策の策定、リスクマネジメントの仕組み構築。」の基本方針のもと、リスク管理体制、報告体制などを決定しております。

リスク管理委員会では、業務遂行上のリスク及び財務報告等の開示に関するリスクについて、リスク管理方針の決定や各担当部署への指示を行っております。また、リスク分析・評価に関しては、リスクを影響度（金額）と頻度（回数）により、明確に整理・分類した上で、重要事項については、経営会議や取締役会へ報告しております。その上で、緊急且つ重要度の高い内容については、防止対策を策定し、リスク軽減に取り組んでおります。

###### (コンプライアンスの推進状況)

コンプライアンスについては、法令及び企業倫理の遵守を徹底するため「サンコール行動規範」を策定し、従業員に配布、コンプライアンス委員会を通じて諸問題に対応しております。

<経営管理組織、その他企業統治体制の模式図>



②内部監査及び監査役監査並びに会計監査の状況

(イ) 内部監査及び監査役監査の組織、人員及び手続

代表取締役社長直轄且つ他部門から独立した内部監査室（４名）を設置し、当社及びグループ会社における業務活動が法令、定款及び社内ルールに基づき適法且つ公正に運営されているか等、各部門の内部統制、コンプライアンス、業務遂行状況等についての内部監査を年間計画に基づき実施し、業務の改善提案、改善結果の確認等を行い、その内容を適宜、取締役、監査役に報告しております。

監査役会は、監査役４名（うち社外監査役２名）で構成しております。社外監査役青木茂樹及び山田英造の両氏は、伊藤忠商事株式会社における経理部門及び監査部門での長年の経験から、相当程度の知見を有しております。監査役会では、監査方針、監査計画、監査役の業務の分担などの決定を行っております。各監査役は、取締役会、経営会議その他重要な会議への出席や業務・財産の状況の調査等を通じ、取締役の職務遂行の監査を行っております。また、必要に応じて子会社に対しても、事業の報告を求める等、調査しております。代表取締役との定期的な意見交換の場（監査役提言会議）を持つ等、監査の実効性の確保並びにコンプライアンスと内部統制の充実強化を図っております。更に、取締役から報告を求め、競業取引・利益相反取引・財産上の利益供与等について調査を行っております。

(ロ) 会計監査人

会計監査人に有限責任監査法人トーマツを選任し、監査契約を締結し、正しい経営情報の提供を通じて、公正不偏な立場での監査が実施できる状況を整えております。

会計監査業務を執行した公認会計士は、木村幸彦と石井尚志の２名であり、会計監査業務に係わる補助者は、公認会計士６名、会計士補等７名、その他３名となっております。

(ハ) 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

監査役と会計監査人は、適宜会合を開催し、監査計画、監査実施状況、指摘事項改善状況を確認するなど連携を密にしております。

監査役と内部監査室内部監査課は、円滑かつ効率的な業務運営、責任体制の確立、リスク管理の徹底などの観点で、情報・意見の交換(月１回定期連絡会)を行っております。

### ③社外取締役及び社外監査役

#### (イ) 社外取締役及び社外監査役の員数

社外取締役2名、社外監査役2名

#### (ロ) 社外取締役及び社外監査役と提出会社との人的・資本的・取引関係その他の利害関係

社外取締役及び社外監査役の各氏と当社との間に特別の利害関係はありません。

取締役川島宏昭、監査役山田英造の両氏が兼職する伊藤忠商事株式会社は、当社の主要株主ですが、それ以外の特別な関係はありません。

取締役藤井晃二氏の兼職する株式会社神戸製鋼所は、当社の主要株主であり、材料供給元ですが、それ以外の特別な関係はありません。

#### (ハ) 社外取締役及び社外監査役が企業統治において果たす機能及び役割並びに当該社外取締役又は社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針の内容

社外取締役及び社外監査役の独立性に関する基準、方針は定めておりませんが、代表取締役などと直接の利害関係のない独立した立場から、経営判断の質・透明性の向上を図るため、客観的な視点で、取締役会を監督する役割・機能としております。

#### (ニ) 社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する提出会社の考え方

取締役川島宏昭、監査役山田英造の両氏が兼職する伊藤忠商事株式会社は、当社の主要株主ですが、それ以外の特別な関係はなく、また当社との取引を直接担当する立場にはないことから独立性は確保されていると判断しております。

取締役藤井晃二氏の兼職する株式会社神戸製鋼所は、当社の主要株主であり、材料供給元ですが、それ以外の特別な関係はなく、また当社の材料調達を担当する部門の所属ではなく、製造部門に所属しており、材料仕入れも含め当社経営陣に対して著しいコントロールを及ぼしうることがないことから、独立性は確保されていると判断しております。

監査役青木茂樹氏は、平成24年6月まで主要株主である伊藤忠商事株式会社の業務執行者でありましたが、当社のビジネスと直接の関係がない監査役室長でしたので、当社経営陣に対して著しいコントロールを及ぼしうる立場にはなかったことから、一般株主との利益相反の生じる恐れはないと判断しております。

#### (ホ) 社外取締役及び社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は、代表取締役などと直接の利害関係のない独立した立場から、経営判断の質・透明性の向上を図るため、客観的な視点で、取締役会を監督する役割・機能としております。

社外取締役は、取締役会において定期的に内部監査室長より報告を受け、監督しております。

監査役会（含む社外監査役）は、会計監査人の監査計画を把握し、会計監査人の監査体制や監査手続き等について説明を受け、必要に応じて監査役が調査しております。

監査役会（含む社外監査役）と内部監査室内部監査課並びに内部監査室内部統制課と会計監査人は、必要に応じて相互に情報及び意見の交換を行う等連携を強め、監査の質的向上を図っております。



④ 役員報酬等

(イ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	163	120	17	24	6
監査役 (社外監査役を除く)	28	28	—	—	2
社外役員	16	16	—	—	5

3 (注) 1 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はおりませんので記載を省略しております。

2 当社は、取締役の使用人兼務部分に対する報酬は、支給しておりません。

3 当社は、取締役及び監査役の役員退職慰労金制度は、採用しておりません。

(ロ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

役員の報酬につきましては、株主総会の決議により取締役及び監査役それぞれの報酬等の限度額を決定しております。

なお、当社は内規におきまして、役員の報酬範囲・算定期間・算定方法等の方針につき、定めております。これらの方針に基づき、1年毎に会社の業績や経営内容、役員本人の成果・責任等を考慮し、役員の報酬等の額を決定しております。

⑤ 株式の保有状況

(イ) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
38銘柄 2,466百万円

(ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車株式会社	141,270	504	企業間取引の維持強化
栗田工業株式会社	165,333	335	政策目的取得後、継続保有
株式会社京都銀行	403,422	302	円滑な金融取引の維持
株式会社神戸製鋼所	1,651,545	221	企業間取引の維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	685,147	180	円滑な金融取引の維持
株式会社エクセディ	49,665	117	企業間取引の維持強化
ダイハツ工業株式会社	40,000	60	企業間取引の維持強化
株式会社クボタ	64,000	50	政策目的取得後、継続保有
株式会社エフ・シー・シー	21,780	40	企業間取引の維持強化
本田技研工業株式会社	12,100	38	企業間取引の維持強化
日本精工株式会社	50,400	32	企業間取引の維持強化
株式会社ユーシン	45,550	31	企業間取引の維持強化
タキロン株式会社	96,800	29	企業間取引の維持強化
スズキ株式会社	10,500	20	企業間取引の維持強化
カシオ計算機株式会社	32,127	18	企業間取引の維持強化

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
富士重工業株式会社	21,000	13	企業間取引の維持強化
日本パワーファスニング株式会社	80,850	10	政策目的取得後、継続保有
田中精密工業株式会社	6,000	4	企業間取引の維持強化
株式会社安永	5,000	3	企業間取引の維持強化
株式会社パイオラックス	1,210	2	政策目的取得後、継続保有
株式会社ケーヒン	1,200	1	企業間取引の維持強化
三和ホールディングス株式会社	5,114	1	政策目的取得後、継続保有
美津濃株式会社	2,667	1	政策目的取得後、継続保有
NKSJホールディングス株式会社	750	1	政策目的取得後、継続保有
アルプス電気株式会社	1,000	0	企業間取引の維持強化
日本発条株式会社	575	0	政策目的取得後、継続保有
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	140	0	円滑な金融取引の維持
帝国通信工業株式会社	787	0	企業間取引の維持強化
沖電気工業株式会社	2,100	0	企業間取引の維持強化
セイコーエプソン株式会社	100	0	政策目的取得後、継続保有

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車株式会社	90,000	321	退職給付信託株式であり、当該株式に係る議決権行使の指図権を有しているもの

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車株式会社	141,270	686	企業間取引の維持強化
株式会社京都銀行	403,422	370	円滑な金融取引の維持
栗田工業株式会社	165,333	340	政策目的取得後、継続保有
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	685,147	303	円滑な金融取引の維持
株式会社神戸製鋼所	1,651,545	180	企業間取引の維持強化
株式会社エクセディ	49,665	108	企業間取引の維持強化
株式会社クボタ	64,000	85	政策目的取得後、継続保有
ダイハツ工業株式会社	40,000	78	企業間取引の維持強化
株式会社エフ・シー・シー	21,780	49	企業間取引の維持強化
本田技研工業株式会社	12,100	43	企業間取引の維持強化
日本精工株式会社	50,400	36	企業間取引の維持強化
富士重工業株式会社	21,000	30	企業間取引の維持強化
株式会社ユーシン	45,550	28	企業間取引の維持強化
カシオ計算機株式会社	32,127	23	企業間取引の維持強化

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
スズキ株式会社	10,500	22	企業間取引の維持強化
日本パワーファスニング株式会社	80,850	11	政策目的取得後、継続保有
田中精密工業株式会社	6,000	5	企業間取引の維持強化
株式会社パイオラックス	1,210	3	政策目的取得後、継続保有
三和ホールディングス株式会社	5,114	2	政策目的取得後、継続保有
株式会社安永	5,000	2	企業間取引の維持強化
株式会社ケーヒン	1,200	1	企業間取引の維持強化
NKSJホールディングス株式会社	750	1	政策目的取得後、継続保有
美津濃株式会社	2,667	1	政策目的取得後、継続保有
アルプス電気株式会社	1,000	0	企業間取引の維持強化
日本発条株式会社	575	0	政策目的取得後、継続保有
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	140	0	円滑な金融取引の維持
タキロン株式会社	800	0	企業間取引の維持強化
沖電気工業株式会社	2,100	0	企業間取引の維持強化
帝国通信工業株式会社	787	0	企業間取引の維持強化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	520	0	円滑な金融取引の維持

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
トヨタ自動車株式会社	90,000	437	退職給付信託株式であり、当該株式に係る議決権行使の指図権を有しているもの

(注) 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

(ハ) 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

⑥ 取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨を定款で定めております。

⑦ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨も定款に定めております。

なお、取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする旨定款に定めております。

⑧ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(イ) 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議により毎年9月30日の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(ロ) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議により、市場取引等による自己株式の取得を行うことができる旨定款に定めております。これは、資本効率の向上及び経営環境の変化などに対して機動的な資本政策の遂行を可能にすることを目的とするものであります。

(ハ) 取締役及び監査役の実任免除

当社は、職務を遂行するにあたり期待された役割を十分に発揮できるよう、会社法426条第1項の規定により、同法423条第1項の取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の損害賠償責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める範囲内で免除することができる旨を定款に定めております。

⑨ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これらは、定足数の確保をより確実にすることを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	45	8	42	—
連結子会社	—	—	—	—
計	45	8	42	—

② 【その他重要な報酬の内容】

当社連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している各国のDeloitte Touche Tohmatsu Ltd.のメンバーファームに対して、前連結会計年度につきましては、年次財務書類などの監査証明業務に基づく報酬として総計9百万円を支払っております。当連結会計年度につきましては、年次財務書類などの監査証明業務に基づく報酬として総計16百万円を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

当社は、会計監査人に対して公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である「国際財務報告基準に関する助言・指導業務」を委託し、対価を計上しております。

④ 【監査報酬の決定方針】

取締役会において別途方針の決議はしておりませんが、当社の事業規模・特性の観点から、合理的監査日数を勘案した上で決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、かつ、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入すると共に、セミナー等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,298	8,682
受取手形及び売掛金	7,495	6,873
商品及び製品	1,321	1,194
仕掛品	1,474	1,342
原材料及び貯蔵品	1,235	1,334
繰延税金資産	253	272
その他	115	154
貸倒引当金	△1	—
流動資産合計	20,193	19,855
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	※1 3,256	※1 3,808
機械装置及び運搬具（純額）	※1 4,612	※1 4,434
土地	1,609	1,622
リース資産（純額）	※1 221	※1 233
建設仮勘定	107	449
その他（純額）	※1 192	※1 212
有形固定資産合計	10,000	10,761
無形固定資産	145	182
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 3,288	※2 4,245
長期貸付金	3	2
繰延税金資産	75	87
前払年金費用	158	168
その他	199	197
投資その他の資産合計	3,724	4,701
固定資産合計	13,870	15,644
資産合計	34,064	35,499

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,657	3,780
短期借入金	263	278
リース債務	82	68
未払金	1,432	1,449
未払法人税等	540	498
賞与引当金	319	349
その他	547	611
流動負債合計	7,844	7,036
固定負債		
リース債務	95	83
繰延税金負債	50	291
退職給付引当金	504	544
その他	90	85
固定負債合計	740	1,004
負債合計	8,584	8,040
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,808	4,808
資本剰余金	2,744	2,744
利益剰余金	18,215	19,575
自己株式	△903	△896
株主資本合計	24,863	26,231
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,308	1,742
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	△796	△589
その他の包括利益累計額合計	511	1,153
新株予約権	104	73
純資産合計	25,479	27,458
負債純資産合計	34,064	35,499

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
売上高		30,658		31,360
売上原価		※1 25,387		※1 25,346
売上総利益		5,271		6,013
販売費及び一般管理費				
運送費及び保管費		653		658
役員報酬		212		212
報酬及び給料手当		746		878
賞与		157		169
賞与引当金繰入額		58		60
退職給付費用		108		103
業務委託費		86		100
減価償却費		297		274
旅費及び交通費		74		80
その他		1,151		1,337
販売費及び一般管理費合計		※1 3,545		※1 3,875
営業利益		1,725		2,137
営業外収益				
受取利息		10		11
受取配当金		66		87
為替差益		—		405
受取賃貸料		7		7
物品売却益		67		74
その他		59		37
営業外収益合計		211		623
営業外費用				
支払利息		22		15
為替差損		45		—
その他		4		4
営業外費用合計		72		20
経常利益		1,864		2,741
特別利益				
固定資産売却益		※2 4		※2 2
退職給付制度移行益		45		—
新株予約権戻入益		—		39
特別利益合計		49		41
特別損失				
固定資産売却損		※3 3		※3 0
固定資産廃棄損		※4 39		※4 50
過年度関税追徴損		26		—
その他		1		0
特別損失合計		71		51
税金等調整前当期純利益		1,843		2,731
法人税、住民税及び事業税		777		888
法人税等調整額		97		△23
法人税等合計		874		864
少数株主損益調整前当期純利益		968		1,867
当期純利益		968		1,867



## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	968	1,867
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	434
繰延ヘッジ損益	△0	1
為替換算調整勘定	△142	206
その他の包括利益合計	※1, ※2 △139	※1, ※2 641
包括利益	828	2,509
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	828	2,509
少数株主に係る包括利益	—	—

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	4,808	4,808
当期末残高	4,808	4,808
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	2,747	2,744
当期変動額		
自己株式の処分	△3	0
当期変動額合計	△3	0
当期末残高	2,744	2,744
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	17,689	18,215
当期変動額		
剰余金の配当	△443	△507
当期純利益	968	1,867
当期変動額合計	525	1,360
当期末残高	18,215	19,575
<b>自己株式</b>		
当期首残高	△921	△903
当期変動額		
自己株式の取得	△1	△1
自己株式の処分	19	9
当期変動額合計	17	7
当期末残高	△903	△896
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	24,324	24,863
当期変動額		
剰余金の配当	△443	△507
当期純利益	968	1,867
自己株式の取得	△1	△1
自己株式の処分	15	9
当期変動額合計	539	1,367
当期末残高	24,863	26,231
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	1,304	1,308
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	434
当期変動額合計	3	434
当期末残高	1,308	1,742
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
当期首残高	△0	△0
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△0	1
当期変動額合計	△0	1
当期末残高	△0	0

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>為替換算調整勘定</b>		
当期首残高	△653	△796
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△142	206
当期変動額合計	△142	206
当期末残高	△796	△589
<b>その他の包括利益累計額合計</b>		
当期首残高	650	511
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△139	641
当期変動額合計	△139	641
当期末残高	511	1,153
<b>新株予約権</b>		
当期首残高	102	104
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	△30
当期変動額合計	2	△30
当期末残高	104	73
<b>純資産合計</b>		
当期首残高	25,077	25,479
当期変動額		
剰余金の配当	△443	△507
当期純利益	968	1,867
自己株式の取得	△1	△1
自己株式の処分	15	9
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△137	611
当期変動額合計	402	1,979
当期末残高	25,479	27,458

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,843	2,731
株式報酬費用	17	17
減価償却費	2,186	1,919
引当金の増減額 (△は減少)	△1	66
受取利息及び受取配当金	△77	△99
支払利息	22	15
固定資産売却損益 (△は益)	△1	△1
固定資産廃棄損	39	50
売上債権の増減額 (△は増加)	△345	833
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△331	332
仕入債務の増減額 (△は減少)	△137	△1,042
その他	215	△375
小計	3,431	4,447
利息及び配当金の受取額	77	98
利息の支払額	△16	△18
法人税等の支払額	△755	△931
法人税等の還付額	0	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,736	3,596
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△1,415	△2,483
固定資産の売却による収入	4	40
投資有価証券の売却による収入	—	38
関係会社株式の取得による支出	—	△325
貸付けによる支出	△5	△1
貸付金の回収による収入	4	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,412	△2,726
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△110	—
長期借入金の返済による支出	△71	△17
リース債務の返済による支出	△122	△96
配当金の支払額	△444	△506
自己株式の処分による収入	0	0
自己株式の取得による支出	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△750	△621
現金及び現金同等物に係る換算差額	△42	135
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	531	384
現金及び現金同等物の期首残高	7,617	8,148
現金及び現金同等物の期末残高	* 8,148	* 8,532

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 8社

主要な連結子会社の名称

サンコールエンジニアリング株式会社

サンコール菊池株式会社

SUNCALL AMERICA INC.

SUNCALL CO., (H. K.) LTD.

SUNCALL HIGH PRECISION (THAILAND) LTD.

SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD.

SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD.

Suncall Technologies(SZ) Co., Ltd.

(主要な非連結子会社の名称及び連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社

PT. SUNCALL INDONESIA

平成22年度において、解散を決議致しましたPT. SUNCALL INDONESIAは現在清算手続き中であり、重要性が乏しいため連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社

関連会社(沢根スプリング株式会社及びKOBELCO SPRING WIRE (FOSHAN) CO., LTD.)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用の範囲から除外しております。また、平成22年度において解散を決議致しました非連結子会社(PT. SUNCALL INDONESIA)は現在清算手続き中であり重要性が乏しいため、持分法の範囲から除外しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

サンコールエンジニアリング株式会社

サンコール菊池株式会社

の決算日は、3月31日であります。

SUNCALL AMERICA INC.

SUNCALL CO., (H. K.) LTD.

SUNCALL HIGH PRECISION (THAILAND) LTD.

SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD.

SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD.

Suncall Technologies(SZ) Co., Ltd.

の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

### 4. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

##### ② デリバティブ

時価法

##### ③ たな卸資産

主として月別移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物及び構築物	15～38年
機械装置及び運搬具	3～9年

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。

②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

③リース資産

（イ）所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

（ロ）所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担に属する額を計上しております。

③退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による按分額をそれぞれ発生翌連結会計年度より費用処理しております。

(4) 連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によることとしております。

なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を行うこととしております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段： 為替予約

ヘッジ対象： 外貨建金銭債権

③ヘッジ方針

為替リスクをヘッジする手段としてのデリバティブ取引を行うこととしており、投機目的のデリバティブ取引は、行わないこととしております。

④ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判断時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動による変動額等を基礎にして判断することとしております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

1. 概要

(1) 連結貸借対照表上の取扱い

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を、税効果を調整の上、純資産の部(その他の包括利益累計額)に計上することとし、積立状況を示す額を負債(又は資産)として計上することとなります。

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書上の取扱い

数理計算上の差異及び過去勤務費用の当期発生額のうち、費用処理されない部分についてはその他の包括利益に含めて計上し、その他の包括利益累計額に計上されている未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用のうち、当期に費用処理された部分についてはその他の包括利益の調整(組替調整)を行うこととなります。

2. 適用予定日

平成25年4月1日以後開始する連結会計年度の期末から適用

3. 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
減価償却累計額	27,557百万円	28,741百万円

※2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	251百万円	576百万円

3 偶発債務

関連会社の金融機関からの借入金に対して、次の通り債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
KOBELCO SPRING WIRE (FOSHAN) CO., LTD.	－百万円	266百万円
計	－	266

(連結損益計算書関係)

※1 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	703百万円	786百万円

※2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具	4百万円	2百万円
その他	0	0
計	4	2

※3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具	2百万円	0百万円
その他	0	－
計	3	0

※4 固定資産廃棄損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
建物及び構築物	4百万円	20百万円
機械装置及び運搬具	32	28
その他	2	1
計	39	50



## (連結包括利益計算書関係)

## ※1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△153百万円	671百万円
組替調整額	0	0
計	△153	671
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	△1	0
組替調整額	0	1
計	△0	1
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△142	206
税効果調整前合計	△296	879
税効果額	156	△237
その他の包括利益合計	△139	641

## ※2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	△153百万円	671百万円
税効果額	156	△236
税効果調整後	3	434
繰延ヘッジ損益：		
税効果調整前	△0	1
税効果額	0	△0
税効果調整後	△0	1
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	△142	206
税効果額	—	—
税効果調整後	△142	206
その他の包括利益合計		
税効果調整前	△296	879
税効果額	156	△237
税効果調整後	△139	641

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

## 1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式(千株)	34,057	—	—	34,057
自己株式				
普通株式(千株)	2,411	4	49	2,365

## (変動事由の概要)

自己株式の増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 4千株

自己株式の減少数の内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの行使による減少 49千株

単元未満株式の売渡し請求による減少 0千株

## 2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	当連結会計年度末残高 (百万円)
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	104
合計		104

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	253	8.0	平成23年3月31日	平成23年6月27日
平成23年11月1日 取締役会	普通株式	189	6.0	平成23年9月30日	平成23年12月9日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	285	9.0	平成24年3月31日	平成24年6月27日

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 発行済株式及び自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
発行済株式				
普通株式（千株）	34,057	—	—	34,057
自己株式				
普通株式（千株）	2,365	3	24	2,344

（変動事由の概要）

自己株式の増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 3千株

自己株式の減少数の内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの行使による減少 24千株

2. 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	当連結会計年度末残高 （百万円）
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	73
合計		73

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	285	9.0	平成24年3月31日	平成24年6月27日
平成24年11月5日 取締役会	普通株式	221	7.0	平成24年9月30日	平成24年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	253	8.0	平成25年3月31日	平成25年6月26日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
現金及び預金勘定	8,298百万円	8,682百万円
預入期間が3ヶ月超の定期預金	△150	△150
現金及び現金同等物	8,148	8,532

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、生産設備、自動車（機械装置及び運搬具）であります。

無形固定資産

主として、生産管理用ソフトウェアであります。

(2) リース資産の減価償却の方法

〔連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項〕の4. 会計処理基準に関する事項、(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 ③ リース資産に記載の通りであります。

2. オペレーティング・リース取引

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融商品でもって運用し、資金調達については銀行借入によっております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金につきましては、顧客の信用リスクに晒されておりますが、取引先毎に期日管理及び残高管理を行うとともに、定期的に信用状況を把握しております。

また、グローバルな事業展開を行っていることから生じる外貨建営業債権につきましては、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約取引を利用することによりヘッジしております。

投資有価証券である株式につきましては、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に取引先企業との業務に関連するものであり、定期的に時価や財務状況を把握するとともに、業務関係を勘案し、保有状況の見直しを行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金や未払金、未払法人税等につきましては、1年以内に支払期日となるものであります。

借入金につきましては、主に設備投資のために資金調達したものであります。なお、一部の設備投資につきましては、リース契約も利用しております。

営業債務及び借入金などは、資金調達に係る流動性リスクに晒されておりますが、月次資金繰計画の作成や適度な手許流動性を確保することなどにより管理を行っております。

デリバティブ取引につきましては、外貨建金銭債権に係る為替変動リスクをヘッジすることを目的とした先物為替予約取引のみに利用し、投機的な取引には利用しておりません。

また、デリバティブ取引の執行にあたりましては、社内規程に則り、管理対象となるリスク・目的・ヘッジ対象期間及び対象範囲を明確にした上で、取引額毎の決裁権限に基づく承認事項として相互牽制を機能させながら行っており、デリバティブ取引の利用にあたりましては、格付けの高い銀行に限定しております。そのため、債務不履行による損失の発生は想定しておりません。

デリバティブ取引の管理につきましては、毎月末における外貨建営業債権及び先物為替予約取引の残高を、取締役会での報告事項としております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（注）2参照

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	連結貸借対照表計上額(*) (百万円)	時価(*) (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	8,298	8,298	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,495	7,495	—
(3) 投資有価証券	2,987	2,987	—
資産計	18,782	18,782	—
(4) 支払手形及び買掛金	4,657	4,657	—
(5) 短期借入金	263	263	—
(6) 未払金	1,432	1,432	—
(7) 未払法人税等	540	540	—
負債計	6,894	6,894	—
(8) デリバティブ取引 (*)	(1)	(1)	(0)

(\*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については ( ) で示しております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額(*) (百万円)	時価(*) (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	8,682	8,682	—
(2) 受取手形及び売掛金	6,873	6,873	—
(3) 投資有価証券	3,619	3,619	—
資産計	19,175	19,175	—
(4) 支払手形及び買掛金	3,780	3,780	—
(5) 短期借入金	278	278	—
(6) 未払金	1,449	1,449	—
(7) 未払法人税等	498	498	—
負債計	6,006	6,006	—
(8) デリバティブ取引 (*)	0	0	—

(\*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については ( ) で示しております。

### (注) 1 金融商品の時価の算定方法及び有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

#### (1) 現金及び預金、並びに (2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### (3) 投資有価証券

これらの時価につきましては、株式は、取引所の価格によっております。

#### (4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金、(6) 未払金、(7) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### (8) デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
非上場株式	55	380

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金及び預金	8,298	—	—	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,495	—	—	—

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
(1) 現金及び預金	8,682	—	—	—
(2) 受取手形及び売掛金	6,873	—	—	—

4. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	246	—	—	—	—	—
長期借入金	17	—	—	—	—	—
リース債務	82	54	26	11	2	0
合計	346	54	26	11	2	0

当連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	278	—	—	—	—	—
リース債務	68	42	24	11	5	0
合計	346	42	24	11	5	0

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (平成24年 3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	2,767	705	2,061
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	220	259	△38
合計		2,987	964	2,023

(注) 非上場株式 (連結貸借対照表計上額 48百万円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度 (平成25年 3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	3,608	913	2,694
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	11	11	△0
合計		3,619	925	2,694

(注) 非上場株式 (連結貸借対照表計上額 49百万円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	38	0	—
合計	38	0	—

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度（平成24年3月31日）

該当するものではありません。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

該当するものではありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度（平成24年3月31日）

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建 ユーロ	売掛金	64	—	△1
為替予約の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	726	—	△13
	為替予約取引 売建 ユーロ	売掛金	32	—	△0
合計			823	—	△14

(注) 時価の算定方法は、先物為替相場によっております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建 ユーロ	売掛金	61	—	0
為替予約の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	821	—	△24
	為替予約取引 売建 ユーロ	売掛金	24	—	△0
合計			906	—	△24

(注) 時価の算定方法は、先物為替相場によっております。



(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、退職一時金制度及び厚生年金基金制度を採用しております。

(追加情報)

前連結会計年度において、当社の国内連結子会社1社は、従来、適格退職年金制度を設けておりましたが、平成23年7月1日付で確定給付年金制度に移行しました。この制度の移行に伴い発生した退職給付債務を超える年金資産残高を特別利益に「退職給付制度移行益」として45百万円計上しております。

要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
年金資産の額(百万円)	60,609	65,155
年金財政計算上の給付債務の額(百万円)	75,130	77,804
差引額(百万円)	△14,520	△12,649

(注) 制度全体の積立状況に関する事項は、前連結会計年度においては平成23年3月31日現在、当連結会計年度においては平成24年3月31日現在における状況であります。

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
掛金拠出割合	2.1%	2.1%

(注) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合は、前連結会計年度においては平成22年4月1日～平成23年3月31日、当連結会計年度においては平成23年4月1日～平成24年3月31日における掛金の拠出割合であります。

(3) 補足説明

前連結会計年度(平成24年3月31日)

上記(1)の差引額の内訳は、年金財政計算上の過去勤務債務7,966百万円及び、繰越不足金6,554百万円であります。当基金における過去勤務債務の償却方法は期間17年1ヶ月の元利均等償却であります。

当連結会計年度(平成25年3月31日)

上記(1)の差引額の内訳は、年金財政計算上の過去勤務債務12,316百万円及び、繰越不足金333百万円であります。当基金における過去勤務債務の償却方法は期間19年0ヶ月の元利均等償却であります。

2. 退職給付債務及びその内容

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
① 退職給付債務(百万円)	△3,474	△3,601
② 年金資産(百万円)	2,357	2,514
③ 未積立退職給付債務①+②(百万円)	△1,116	△1,086
④ 未認識数理計算上の差異(百万円)	805	726
⑤ 未認識過去勤務債務(百万円)	△34	△16
⑥ 連結貸借対照表計上額純額 (③+④+⑤)(百万円)	△346	△376
⑦ 前払年金費用(百万円)	158	168
⑧ 退職給付引当金(⑥-⑦)(百万円)	△504	△544

(注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。

3. 退職給付費用及びその内容

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
① 勤務費用 (百万円)	245	230
② 利息費用 (百万円)	43	46
③ 期待運用収益 (百万円)	△27	△29
④ 過去勤務債務償却費用 (百万円)	△18	△18
⑤ 数理計算上の差異償却費用 (百万円)	74	78
小計	316	307
⑥ 厚生年金基金拠出額 (百万円)	97	61
退職給付費用合計 (百万円)	414	368

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は「① 勤務費用」に含めております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎

(1) 退職給付見込額等の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.5%	1.5%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1.5%	1.5%

(4) 過去勤務債務の額の処理年数

10年

(5) 数理計算上の差異の処理年数

15年定額法 (発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
販売費及び一般管理費 (役員報酬)	17百万円	17百万円
特別利益	—	39

(注) 特別利益は、ストック・オプションの権利不行使による失効により利益として計上した新株予約権戻入益であります。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

決議年月日	平成18年6月23日	同左	平成19年6月22日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役5名	当社従業員78名	当社取締役5名
株式の種類及び付与数	普通株式 60,000株	普通株式 211,000株	普通株式 46,000株
付与日	平成18年8月1日	同左	平成19年7月30日
権利確定条件	権利確定条件は付されていません。	同左	同左
対象勤務期間	定めておりません。	同左	同左
権利行使期間	平成20年8月2日から平成24年8月1日まで	同左	平成19年7月31日から平成29年7月30日まで

決議年月日	平成20年7月14日	平成21年7月30日	平成22年7月14日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役5名	当社取締役5名	当社取締役5名
株式の種類及び付与数	普通株式 66,000株	普通株式 60,000株	普通株式 60,000株
付与日	平成20年7月30日	平成21年8月17日	平成22年7月30日
権利確定条件	権利確定条件は付されていません。	同左	同左
対象勤務期間	定めておりません。	同左	同左
権利行使期間	平成20年7月31日から平成30年7月30日まで	平成21年8月18日から平成31年8月17日まで	平成22年7月31日から平成32年7月30日まで

決議年月日	平成23年7月15日	平成24年7月17日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役5名	当社取締役5名
株式の種類及び付与数	普通株式 60,000株	普通株式 60,000株
付与日	平成23年8月1日	平成24年8月2日
権利確定条件	権利確定条件は付されていません。	同左
対象勤務期間	定めておりません。	同左
権利行使期間	平成23年8月2日から平成33年8月1日まで	平成24年8月3日から平成34年8月2日まで

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

① ストック・オプションの数

決議年月日	平成18年 6月23日	平成18年 6月23日	平成19年 6月22日	平成20年 7月14日	平成21年 7月30日	平成22年 7月14日	平成23年 7月15日	平成24年 7月17日
権利確定前（株）								
前連結会計年度末	—	—	—	—	—	—	—	—
付与	—	—	—	—	—	—	—	60,000
失効	—	—	—	—	—	—	—	—
権利確定	—	—	—	—	—	—	—	60,000
未確定残	—	—	—	—	—	—	—	—
権利確定後（株）								
前連結会計年度末	60,000	194,000	13,000	30,000	40,000	60,000	60,000	—
権利確定	—	—	—	—	—	—	—	60,000
権利行使	—	—	6,000	10,000	8,000	—	—	—
失効	60,000	194,000	—	—	—	—	—	—
未行使残	—	—	7,000	20,000	32,000	60,000	60,000	60,000

② 単価情報

決議年月日	平成18年 6月23日	平成18年 6月23日	平成19年 6月22日	平成20年 7月14日	平成21年 7月30日	平成22年 7月14日	平成23年 7月15日	平成24年 7月17日
権利行使価格（円）	733	770	1	1	1	1	1	1
行使時平均株価（円）	—	—	371	371	453	—	—	—
付与日における公正な 評価単価（円）	164	152	595	370	238	317	298	293

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された平成24年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下の通りであります。

① 使用した算定技法 ブラック・ショールズ式

② 主な基礎数値及び見積方法

	平成24年ストック・オプション
株価変動性 (注) 1	32.696%
予想残存期間 (注) 2	5年
予想配当 (注) 3	15円/株
無リスク利子率 (注) 4	0.175%

(注) 1 予想残存期間に対応する期間の過去の株価実績に基づき算定しております。

2 合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

3 平成24年3月期の配当実績によっております。

4 予想残存期間に対応する期間の国債の利回りであります。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	121百万円	132百万円
棚卸資産内部利益	27	37
退職給付引当金	208	224
未払事業税	43	44
有形固定資産減価償却	452	439
投資有価証券	114	114
欠損金	148	112
その他	130	130
繰延税金資産小計	1,246	1,235
評価性引当額	△75	△41
繰延税金資産合計	1,171	1,194
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△713	△949
前払年金費用	△54	△57
固定資産	△117	△110
その他	△8	△7
繰延税金負債合計	△892	△1,125
繰延税金資産の純額	278	68
繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。		
流動資産－繰延税金資産	253百万円	272百万円
固定資産－繰延税金資産	75	87
固定負債－繰延税金負債	△50	△291

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	40.0%	37.7%
(調整)		
海外子会社との税率差異	△1.2	△2.9
試験研究費特別控除	△1.7	△1.4
評価性引当額	2.3	△0.8
特定子会社の留保利益	2.2	0.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.6	—
海外優遇税制	△1.1	—
その他	2.4	△1.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	47.5	31.7

## (企業結合等関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

該当事項はありません。

## (資産除去債務関係)

重要性が乏しいため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象としております。

当社は、主に「精密加工金属製品・関連品」を生産・販売しており、国内においては当社及び子会社2社が、海外においては米国及びアジア（主に中国、ベトナム、タイ）の各地域を現地法人がそれぞれ担当しております。

現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取り扱う製品については各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、生産・販売体制を基礎とした地域別のセグメントから構成されており、「日本」、「米国」及び「アジア」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントでは、「精密加工金属製品・関連品」のほかに、「その他製品」を生産・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：百万円)

	日本	米国	アジア	合計	調整額 (注)	連結財務諸 表計上額
売上高						
外部顧客への売上高	23,681	1,901	5,075	30,658	—	30,658
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,713	1	541	2,256	△2,256	—
計	25,394	1,903	5,617	32,915	△2,256	30,658
セグメント利益又は損失(△)	2,183	△106	113	2,190	△465	1,725
セグメント資産	26,136	1,402	3,997	31,537	2,527	34,064
その他の項目						
減価償却費	1,801	190	219	2,212	△25	2,186
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	1,230	94	58	1,382	△3	1,379

- (注) 1 セグメント利益の調整額△465百万円には、セグメント間取引の消去58百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△524百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社の業務管理部門等にかかる費用であります。
- 2 セグメント資産の調整額2,527百万円には、セグメント間取引の消去△2,432百万円、当社の余剰運用資金等4,959百万円が含まれております。
- 3 減価償却費の調整額△25百万円は、セグメント間取引の消去であります。
- 4 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△3百万円は、セグメント間取引の消去であります。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	日本	米国	アジア	合計	調整額 (注)	連結財務諸 表計上額
売上高						
外部顧客への売上高	23,329	2,608	5,421	31,360	—	31,360
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,072	2	559	2,633	△2,633	—
計	25,401	2,610	5,981	33,994	△2,633	31,360
セグメント利益	2,283	39	294	2,616	△478	2,137
セグメント資産	25,488	1,949	4,618	32,055	3,443	35,499
その他の項目						
減価償却費	1,611	185	141	1,938	△19	1,919
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	1,936	368	293	2,598	△95	2,503

- (注) 1 セグメント利益の調整額△478百万円には、セグメント間取引の消去△17百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△460百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社の業務管理部門等にかかる費用であります。
- 2 セグメント資産の調整額3,443百万円には、セグメント間取引の消去△2,758百万円、当社の余剰運用資金等6,201百万円が含まれております。
- 3 減価償却費の調整額△19百万円は、セグメント間取引の消去であります。
- 4 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額△95百万円は、セグメント間取引の消去であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

精密機能材料	精密機能部品	サスペンション	プリンター関連	デジトロ精密部品	その他製品	合計
3,918	16,814	4,400	3,383	1,986	156	30,658

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	北アメリカ	ヨーロッパ	アジア	その他の地域	合計
16,935	2,685	907	9,939	190	30,658

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	米国	アジア	合計
8,389	686	923	10,000

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
SHENZHEN HAILIANG STORAGE PRODUCTS CO., LTD.	4,260	日本

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：百万円）

精密機能材料	精密機能部品	サスペンション	プリンター関連	デジトロ精密部品	その他製品	合計
3,975	18,016	4,092	3,187	1,909	177	31,360

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	北アメリカ	ヨーロッパ	アジア	その他の地域	合計
16,773	3,648	657	9,979	301	31,360

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	米国	アジア	合計
8,566	949	1,244	10,761

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：百万円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
SHENZHEN HAILIANG STORAGE PRODUCTS CO., LTD.	3,960	日本

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	800.68円	863.53円
1株当たり当期純利益金額	30.60円	58.90円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	30.36円	58.44円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	968	1,867
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	968	1,867
期中平均株式数(千株)	31,652	31,701
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	244	252
うち新株予約権(千株)	244	252
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権方式によるストック・オプション  平成18年6月23日決議 60千株 194千株	—

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	246	278	5.04	—
1年以内に返済予定の長期借入金	17	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	82	68	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	—	—	—	—
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	95	83	—	平成26年～30年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	441	429	—	—

(注) 1 「平均利率」につきましては、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の平均利率につきましては、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 リース債務には、12月末を決算日とする連結子会社のものが含まれております。

4 リース債務（1年以内に返済予定のものを除く）の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	42	24	11	5

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	8,191	16,369	23,670	31,360
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	728	1,223	1,924	2,731
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	502	862	1,335	1,867
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	15.86	27.21	42.12	58.90

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	15.86	11.36	14.91	16.71

2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,653	6,931
受取手形	311	257
売掛金	※2 6,447	※2 5,799
商品及び製品	814	694
仕掛品	1,160	1,061
原材料及び貯蔵品	632	441
繰延税金資産	181	184
短期貸付金	※2 726	※2 1,236
未収入金	※2 190	※2 153
その他	10	22
貸倒引当金	△1	—
流動資産合計	17,125	16,782
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	※1 2,444	※1 2,923
構築物（純額）	※1 256	※1 237
機械及び装置（純額）	※1 3,274	※1 3,006
車両運搬具（純額）	※1 5	※1 3
工具、器具及び備品（純額）	※1 162	※1 171
土地	1,527	1,527
リース資産（純額）	※1 78	※1 75
建設仮勘定	72	69
有形固定資産合計	7,822	8,013
無形固定資産		
ソフトウェア	112	142
電話加入権	6	6
無形固定資産合計	119	149
投資その他の資産		
投資有価証券	2,076	2,466
関係会社株式	4,155	4,722
従業員に対する長期貸付金	3	2
関係会社長期貸付金	1,436	1,125
長期前払費用	27	20
前払年金費用	106	106
その他	92	89
関係会社投資損失引当金	△230	△230
投資その他の資産合計	7,668	8,304
固定資産合計	15,611	16,468
資産合計	32,737	33,251

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	2	0
買掛金	※2 4,128	※2 3,133
リース債務	29	25
未払金	※2 1,382	※2 1,362
未払費用	153	144
未払法人税等	504	407
預り金	168	189
賞与引当金	245	269
その他	9	12
流動負債合計	6,623	5,546
固定負債		
リース債務	49	49
繰延税金負債	16	254
退職給付引当金	433	466
その他	59	44
固定負債合計	558	815
負債合計	7,181	6,362
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,808	4,808
資本剰余金		
資本準備金	2,721	2,721
その他資本剰余金	22	22
資本剰余金合計	2,744	2,744
利益剰余金		
利益準備金	581	581
その他利益剰余金		
研究開発積立金	2,800	2,800
退職積立金	70	—
設備改修積立金	2,450	2,450
別途積立金	6,720	7,020
繰越利益剰余金	4,873	5,563
利益剰余金合計	17,495	18,415
自己株式	△903	△896
株主資本合計	24,143	25,071
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,308	1,742
繰延ヘッジ損益	△0	0
評価・換算差額等合計	1,307	1,743
新株予約権	104	73
純資産合計	25,556	26,888
負債純資産合計	32,737	33,251

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	24,881	24,823
売上原価		
製品期首たな卸高	900	814
当期製品仕入高	4,191	3,978
当期製品製造原価	※2 16,356	※2 16,179
合計	21,448	20,972
製品期末たな卸高	814	694
売上原価合計	20,634	20,278
売上総利益	4,247	4,545
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	503	515
役員報酬	182	183
報酬及び給料手当	568	621
賞与	146	153
賞与引当金繰入額	51	56
退職給付費用	98	90
業務委託費	79	88
減価償却費	268	251
旅費及び交通費	57	60
支払手数料	127	112
その他	720	836
販売費及び一般管理費合計	※2 2,804	※2 2,970
営業利益	1,442	1,574
営業外収益		
受取利息	※1 26	※1 29
受取配当金	※1 232	※1 227
受取賃貸料	※1 55	※1 51
為替差益	21	268
その他	53	34
営業外収益合計	389	611
営業外費用		
貸貸費用	41	38
その他	2	2
営業外費用合計	43	41
経常利益	1,788	2,145
特別利益		
固定資産売却益	※3 2	※3 16
新株予約権戻入益	—	39
その他	—	0
特別利益合計	2	55

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
特別損失		
固定資産廃棄損	※4 30	※4 48
その他	0	0
特別損失合計	30	49
税引前当期純利益	1,761	2,151
法人税、住民税及び事業税	654	726
法人税等調整額	80	△2
法人税等合計	735	724
当期純利益	1,026	1,427

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費		8,941	54.1	8,542	53.0
II 労務費		2,798	16.9	2,938	18.2
III 経費		4,784	29.0	4,625	28.7
(うち外注加工費)		(1,038)	(6.3)	(1,058)	(6.6)
当期総製造費用		16,523	100.0	16,105	100.0
期首仕掛品たな卸高		1,019		1,160	
合計		17,540		17,265	
他勘定振替高	※1	26		24	
期末仕掛品たな卸高		1,160		1,061	
当期製品製造原価		16,356		16,179	

(注) ※1 主な内訳は、次の通りであります。

項目	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)
貯蔵品	26	24
計	26	24

(原価計算の方法)

品種別総合原価計算による実際原価計算を採用しております。

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	4,808	4,808
当期末残高	4,808	4,808
<b>資本剰余金</b>		
<b>資本準備金</b>		
当期首残高	2,721	2,721
当期末残高	2,721	2,721
<b>その他資本剰余金</b>		
当期首残高	25	22
当期変動額		
自己株式の処分	△3	0
当期変動額合計	△3	0
当期末残高	22	22
<b>資本剰余金合計</b>		
当期首残高	2,747	2,744
当期変動額		
自己株式の処分	△3	0
当期変動額合計	△3	0
当期末残高	2,744	2,744
<b>利益剰余金</b>		
<b>利益準備金</b>		
当期首残高	581	581
当期末残高	581	581
<b>その他利益剰余金</b>		
<b>研究開発積立金</b>		
当期首残高	2,800	2,800
当期末残高	2,800	2,800
<b>退職積立金</b>		
当期首残高	70	70
当期変動額		
退職積立金の取崩	—	△70
当期変動額合計	—	△70
当期末残高	70	—
<b>設備改修積立金</b>		
当期首残高	2,450	2,450
当期末残高	2,450	2,450
<b>別途積立金</b>		
当期首残高	6,520	6,720
当期変動額		
別途積立金の積立	200	300
当期変動額合計	200	300
当期末残高	6,720	7,020



(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
<b>繰越利益剰余金</b>		
当期首残高	4,490	4,873
当期変動額		
剰余金の配当	△443	△507
退職積立金の取崩	—	70
別途積立金の積立	△200	△300
当期純利益	1,026	1,427
当期変動額合計	383	690
当期末残高	4,873	5,563
<b>利益剰余金合計</b>		
当期首残高	16,912	17,495
当期変動額		
剰余金の配当	△443	△507
当期純利益	1,026	1,427
当期変動額合計	583	920
当期末残高	17,495	18,415
<b>自己株式</b>		
当期首残高	△921	△903
当期変動額		
自己株式の取得	△1	△1
自己株式の処分	19	9
当期変動額合計	17	7
当期末残高	△903	△896
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	23,546	24,143
当期変動額		
剰余金の配当	△443	△507
当期純利益	1,026	1,427
自己株式の取得	△1	△1
自己株式の処分	15	9
当期変動額合計	597	928
当期末残高	24,143	25,071

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,304	1,308
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	434
当期変動額合計	3	434
当期末残高	1,308	1,742
繰延ヘッジ損益		
当期首残高	△0	△0
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△0	1
当期変動額合計	△0	1
当期末残高	△0	0
評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,304	1,307
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	435
当期変動額合計	3	435
当期末残高	1,307	1,743
新株予約権		
当期首残高	102	104
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	△30
当期変動額合計	2	△30
当期末残高	104	73
純資産合計		
当期首残高	24,952	25,556
当期変動額		
剰余金の配当	△443	△507
当期純利益	1,026	1,427
自己株式の取得	△1	△1
自己株式の処分	15	9
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	5	404
当期変動額合計	603	1,332
当期末残高	25,556	26,888

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ

時価法

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

月別移動平均法による原価法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 (リース資産を除く)

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物 (建物附属設備を除く) については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物	20～38年
機械及び装置	3～9年

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

(2) 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年) に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 関係会社投資損失引当金

関係会社への投資に係る損失に備えるため、関係会社の財政状態等を勘案して計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期の負担に属する額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による按分額をそれぞれ発生翌事業年度より費用処理しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によることとしております。

なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を行うこととしております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：為替予約

ヘッジ対象：外貨建金銭債権

(3) ヘッジ方針

為替リスクをヘッジする手段としてのデリバティブ取引を行うこととしており、投機目的のデリバティブ取引は、行わないこととしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判断時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動による変動額等を基礎にして判断することとしております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「為替差益」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立提起することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた74百万円は、「為替差益」21百万円、「その他」53百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
減価償却累計額	22,301百万円	22,787百万円

※2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
流動資産		
売掛金	531百万円	550百万円
短期貸付金	722	1,234

3 偶発債務

子会社及び関連会社の金融機関からの借入金に対して、次の通り債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD.	261百万円	302百万円
SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD.	17	—
KOBELCO SPRING WIRE (FOSHAN) CO., LTD.	—	266
計	278	569

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引に係るものが次の通り含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年4月31日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月31日 至 平成25年3月31日)
受取利息	19百万円	19百万円
受取配当金	193	190
受取賃貸料	48	44

※2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 平成23年4月31日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月31日 至 平成25年3月31日)
研究開発費	673百万円	766百万円

※3 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成23年4月31日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月31日 至 平成25年3月31日)
機械及び装置	0百万円	15百万円
車両運搬具	2	0
工具、器具及び備品	0	0
計	2	16

※4 固定資産廃棄損の内訳

	前事業年度 (自 平成23年4月31日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月31日 至 平成25年3月31日)
建物	0百万円	17百万円
構築物	1	3
機械及び装置	25	27
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	1	0
建設仮勘定	0	—
計	30	48

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	2,411	4	49	2,365

(変動事由の概要)

自己株式の増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 4千株

自己株式の減少数の内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの行使による減少 49千株

単元未満株式の売渡し請求による減少 0千株

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(千株)	2,365	3	24	2,344

(変動事由の概要)

自己株式の増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 3千株

自己株式の減少数の内訳は、次の通りであります。

ストック・オプションの行使による減少 24千株

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、自動車(車両運搬具)であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

[重要な会計方針]の4. 固定資産の減価償却の方法、(3)リース資産に記載の通りです。

2. オペレーティング・リース取引

該当事項はありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,189百万円、関連会社株式331百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式3,189百万円、関連会社株式6百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	92百万円	101百万円
退職給付引当金	184	198
未払事業税	41	39
有形固定資産減価償却	400	382
投資有価証券	24	25
関係会社株式	256	262
その他	109	109
繰延税金資産小計	1,110	1,118
評価性引当額	△195	△200
繰延税金資産合計	915	917
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△713	△949
前払年金費用	△37	△37
繰延税金負債合計	△750	△987
繰延税金資産（負債）の純額	164	△70
繰延税金資産（負債）の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。		
流動資産－繰延税金資産	181百万円	184百万円
固定負債－繰延税金負債	△16	△254

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	40.0%	37.7%
(調整)		
受取配当金の益金不算入	△4.6	△3.3
試験研究費特別控除	△1.7	△1.7
ストックオプション戻入益	—	△0.7
役員賞与等永久に損金に算入されない項目	0.9	0.8
特定子会社の留保利益	2.3	0.8
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.7	—
その他	0.1	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	41.7	33.7



## (1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	803.08円	845.55円
1株当たり当期純利益金額	32.42円	45.02円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	32.17円	44.67円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

項目	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
損益計算書上の当期純利益(百万円)	1,026	1,427
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,026	1,427
普通株式の期中平均株式数(千株)	31,652	31,701
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	244	252
うち新株予約権(千株)	244	252
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	新株予約権方式によるストック・オプション  平成18年6月23日決議 60千株 194千株	—

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】  
 【有価証券明細表】  
 【株式】

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
トヨタ自動車株式会社	141,270	686
株式会社京都銀行	403,422	370
栗田工業株式会社	165,333	340
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社	685,147	303
株式会社神戸製鋼所	1,651,545	180
株式会社エクセディ	49,665	108
株式会社クボタ	64,000	85
ダイハツ工業株式会社	40,000	78
株式会社エフ・シー・シー	21,780	49
本田技研工業株式会社	12,100	43
その他 (28銘柄)	1,194,031	221
計	4,428,293	2,466

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	6,178	648	91	6,735	3,812	149	2,923
構築物	1,858	16	55	1,819	1,582	33	237
機械及び装置	17,950	862	730	18,083	15,076	1,061	3,006
車両運搬具	66	1	12	54	51	2	3
工具、器具及び備品	2,297	154	91	2,359	2,188	144	171
土地	1,527	—	—	1,527	—	—	1,527
リース資産	172	29	50	151	76	33	75
建設仮勘定	72	1,740	1,744	69	—	—	69
有形固定資産計	30,124	3,453	2,776	30,801	22,787	1,423	8,013
無形固定資産							
ソフトウェア	—	—	—	634	491	45	142
電話加入権	—	—	—	6	—	—	6
無形固定資産計	—	—	—	641	491	45	149
長期前払費用	—	—	—	20	—	8	20

- (注) 1 当期増加額のうち主なものは、建物については社員寮の再建等、また機械及び装置については、精密機能部品の自動車精密部品用合理化設備及びサスペンションの新品種用増産設備等であります。
- 2 当期減少額の主なものは、機械及び装置並びに工具、器具及び備品については、陳腐化に伴う廃棄等によるものであります。
- 3 無形固定資産及び長期前払費用の金額が資産総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1	—	—	1	—
関係会社投資損失引当金	230	—	—	—	230
賞与引当金	245	269	245	—	269

- (注) 貸倒引当金の「当期減少額その他」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## ① 現金及び預金

区分	金額（百万円）
現金	4
預金	
当座預金	660
普通預金	1,265
定期預金	5,000
計	6,926
合計	6,931

## ② 受取手形

## (イ) 相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
ボルグワーナー・モールステック・ジャパン株式会社	64
日本ピストンリング株式会社	40
株式会社不二越	35
林テレンプ株式会社	29
株式会社NTN三雲製作所	19
その他	68
合計	257

## (ロ) 期日別内訳

期日別	金額（百万円）
平成25年4月満期	73
"    5月    "	78
"    6月    "	73
"    7月    "	31
合計	257

③ 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
SHENZHEN HAILIANG STORAGE PRODUCTS CO., LTD.	1,188
N S K ワーナー株式会社	361
日信工業株式会社	305
トヨタ自動車株式会社	298
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	241
その他	3,404
合計	5,799

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円) (A)	当期発生高 (百万円) (B)	当期回収高 (百万円) (C)	当期末残高 (百万円) (D)	回収率 (%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間 (日) $\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
6,447	26,560	27,208	5,799	82.4	84.1

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

④ たな卸資産

科目	区分	内訳 (百万円)	合計 (百万円)
商品及び製品	精密機能材料	278	694
	精密機能部品	278	
	サスペンション	109	
	プリンター関連	—	
	デジトロ精密部品	27	
	その他製品	0	
仕掛品	精密機能材料	390	1,061
	精密機能部品	410	
	サスペンション	216	
	プリンター関連	10	
	デジトロ精密部品	34	
	その他製品	0	
原材料及び貯蔵品	精密機能材料	65	441
	精密機能部品	126	
	サスペンション	143	
	プリンター関連	1	
	デジトロ精密部品	25	
	消耗工具器具備品他	79	
合計		2,197	2,197

⑤ 関係会社株式

銘柄	金額（百万円）
SUNCALL AMERICA INC.	1,356
伊藤忠商事株式会社	1,201
SUNCALL (Guangzhou) CO., LTD.	650
SUNCALL TECHNOLOGY VIETNAM CO., LTD.	435
SUNCALL HIGH PRECISION (THAILAND) LTD.	277
PT. SUNCALL INDONESIA	245
サンコール菊池株式会社	97
サンコールエンジニアリング株式会社	69
SUNCALL CO., (H. K.) LTD.	58
沢根スプリング株式会社	6
KOBELCO WIRE SPRING (FOSHAN) CO., LTD.	325
合計	4,722

⑥ 買掛金

相手先	金額（百万円）
大日本印刷株式会社	582
東邦発条株式会社	290
大阪精工株式会社	253
株式会社ナカヒョウ	219
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	157
その他	1,629
合計	3,133

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは次の通りです。 <a href="http://www.suncall.co.jp/">http://www.suncall.co.jp/</a>
株主に対する特典	なし

- (注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
- 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
  - 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
  - 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
  - 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売渡すことを請求する権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第95期）（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）平成24年6月26日近畿財務局長に提出

(2) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

平成24年6月21日近畿財務局長に提出

事業年度（第94期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

(3) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年6月26日近畿財務局長に提出

(4) 四半期報告書及び確認書

（第96期第1四半期）（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）平成24年8月9日近畿財務局長に提出

（第96期第2四半期）（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）平成24年11月13日近畿財務局長に提出

（第96期第3四半期）（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）平成25年2月13日近畿財務局長に提出

(5) 臨時報告書

平成24年6月28日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。



## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年6月25日

サンコール株式会社  
取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 木村幸彦 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士 石井尚志 ㊞

### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサンコール株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サンコール株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、サンコール株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、サンコール株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

# 独立監査人の監査報告書

平成25年6月25日

サンコール株式会社  
取締役会 御中

## 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木村幸彦 ⑩

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石井尚志 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサンコール株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第96期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サンコール株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。